

聖徒の道

5 1980



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ベリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

国際機関誌

編集人：M・ラッセル・バラード・ジュニア
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：キャロル・D・ラーセン
子供の頁編集：コニー・ウィルクックス
デザイナー：ロジャー・ギリング

もくじ

祈り	スペンサー・W・キンボール	1
なぜ委任できないのか	ウィリアム・G・ダイヤー	7
さまざまな声	ロバート・R・ボーン	11
忍耐は報われました	エリーサ・J・ポールセン	14
ただ切手代さえ惜しまなければ	ローナ・バーネット	16
「この方です。どうぞ話して下さい」	ブルース・C・ヘイフェン	18
通りの向こうに住む家族	O・モレル・クラーク	20
小さなお友だちへ		21
救い主はあなたを愛してください	スペンサー・W・キンボール	22
なんでもできるイルカ	ジョアン・アンドレ・ムーア	24
はねぶとん	ドロシー・S・アンダーソン	27
謙遜に、しかも威厳と誉れをもって	D・アーサー・ヘイコック	29
備えの神権	ボイド・K・パッカー	30
新郎新婦からの贈り物	ユージン・A・カピュート	34
新たな出発	バブゼイン・パーク	36
永遠に続く事柄を第一に考える	ビクター・L・ブラウン	38
ローカル・ニュース		44

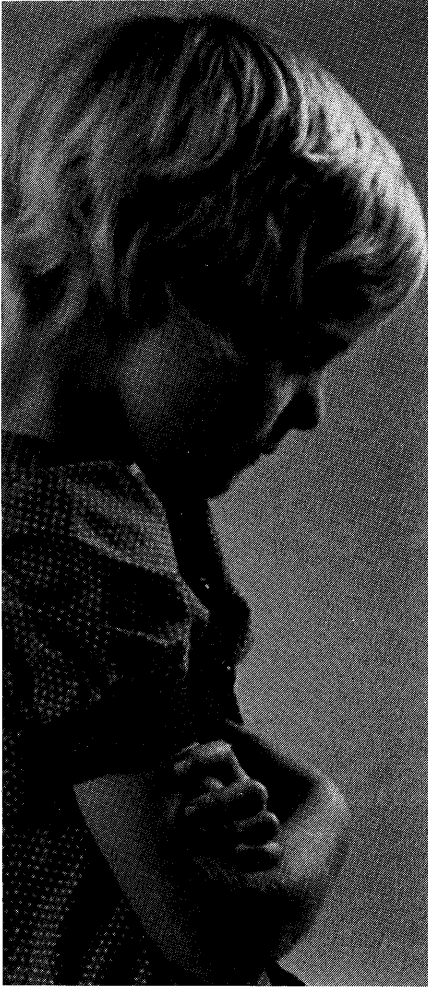
聖徒の道 5月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間子約1,700円 1部150円
海外子約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 045AJA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 ^{まっじつ}末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター



祈り

大管長
スペンサー・W・キンホール

聖書の中にこのような言葉があります。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」（箴言22：6）また、「^た矯めるなら若木のうち」ということわざもあります。確かに、若いうちに思いと行ないの点において正しい習慣を身につけるならば、落とし穴は避けることができ、偉大な、力強い世代が育つに違いありません。

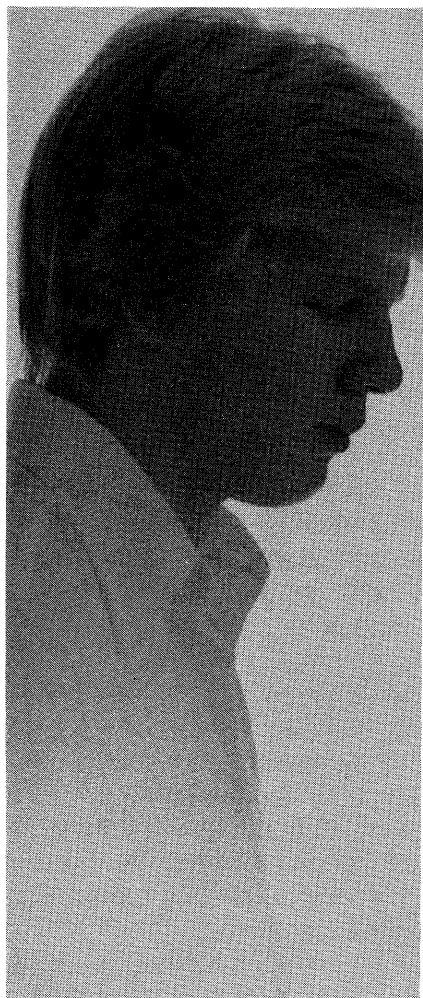
なぜ私たちは祈るのでしょうか

私たちは天父の息子、娘です。したがって私たちは自分が受けているすべてのもの——食物も衣服も健康も、生命そのものも、また視覚や聴覚、声、より高いものを目指す能力、さらには頭脳さえもすべて天父に依存しています。

それにもかかわらず、祈りを怠っている人が大勢います。私たちはすべてを御存じである天父から、祈るようにと命じられています。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願ひ求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」（ヤコブ1：5）

十代はじめのひとりの若者がいました。彼は知恵に不足していましたが、正直で信仰の篤い若者でした。この若者の祈りが閉ざされていた天を開き、混乱していた世界に真理の探究の道を大きく広げたのです。その日、ありふれたただの森が聖別され、栄光に包まれたのでした。森の木々も土も清められて、聖なる場所となったのです。

主は私たちに次のような厳粛な戒めを与えておられます。「祈るべき時にわが前に祈りをなすことを守らざる者は、わが民を審く者の前に覚えらるべし。」（教義と聖約68：33）「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前



そうでなければできるだけ大勢が集まって家族の祈りを捧げるようにと勧められています。家族の祈りは長々とする必要はありません。子供が小さい場合は特にそうです。また、祈りは、小さい子供も含めて家族の全員が順番にします。

私たちはこれまでに受けた祝福に対して感謝の気持ちを表わすことが大切です。全世界で進められている伝道活動についても祈るとよいでしょう。幼いうちから宣教師のために祈る子供は、将来きっと立派な宣教師になるでしょう。私たちはまた理解力や知恵や判断力を求めて祈ることができます。愛する人や病人、困っている人のためにも祈ることができます。また、挫折した人や悲嘆に暮れている人、罪に汚れた人のために祈ることもできます。今述べてきたような祈りは大部分が一般的なことですが、私たちの個人の祈りはもっと具体的です。そして、これは少なくともふたつの種類に分けられるでしょう。ひとつは、定期的にひざまずいて祈る正式な祈りです。この祈りでは、ほかの時と比べて一層親しく主に語りかけます。家族の祈りと同じことを祈ることもありますが、多くの場合はもっと急を要する事柄について祈ります。私たちの心の奥底にある思いを打ち明け、自己の弱点を認めるのです。また弱点を克服できるように助けを願い、神の教えに背いたことや悪い思いを抱いたことを赦して下さいように求めます。私たちは祈りの中で身も霊も明らかにするのです。

長い間敵を持ったり、自分が祈っている人を憎み続けられる人がいるのでしょうか。もしそのような人がいたら、その人は一切の見せかけや仮面を捨て去らなければなりません。そして、虚飾や偽りのないありのままの姿で創造主の前に立つのです。

もうひとつはそれほど堅苦しくない個人の祈りです。私たちはいつも心の中で、最善を尽くせるように、よく思われるように、学んだ事柄を覚えていられるようにと祈ることが

に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68：28)「われ汝に再び命ず。汝心の中にも祈りまた声を出しても祈るべし。然り、人々の前にも祈りまたひそかにても祈り、公にても祈りまた陰にても祈るべし。」(教義と聖約19：28)

いつ祈ればよいでしょうか
いつも祈りなさい、というのがその答えです。もっと具体的に言うと、家族そろってか、

できます。話をする時も、歩いていても、車を運転していても祈ることはできます。友達や自分を快く思っていない人のことで祈ることもできます。私たちはまた知恵や判断力を求めて祈ったり、危険な場所にいる時は守りを、誘惑にあった時は打ち勝つ強さを求めて祈ることができます。言葉によっても心の思いでも、声に出しても無言のうちにも、いつでも祈ることができるのです。心の中で、あるいは言葉に出して正直に祈る人は悪いことができるはずがありません。

たいていの人は時折、重大な決定をしなければならない事態に出会います。主はその決断をする時のために道を備えて下さいました。学校や職業の選択、住む場所、結婚相手など、そのほか重大な問題がある時、私たちはその問題を解決するためにまず自分にできることをすべて行なう必要があります。私たちはオリヴァ・カウドリのように努力もしないで答えを求めていることがあまりにも多いのではないのでしょうか。主はオリヴァ・カウドリに次のように言っておられます。

「見よ、汝いまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。

されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。

されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり……。」
(教義と聖約9：7—9)

主は私たちの祈りに答えて下さいます。これは真実です。しかし、時々、私たちの方が敏感でないために、いつ、どのようにして答えが与えられているかわからないことがあります。ある人々は「壁に書き記された文字」や天使の語る声、天からの声のみを求める傾向があります。また、しばしば不合理なことを願ひ求めます。そこで、主はこのように言

っておられます。「これらのことを軽んずるなかれ。また、求むべきにあらざるものを求むることなかれ。」(教義と聖約8：10)

信仰は行ないを伴わなければなりません。主に知識を授けて下さるように願っても無駄なように思えるかもしれませんが、主は、私たちが知識を得たり積極的に勉強したりできるように、また明確な考え方や教わった事柄を覚えていられるように助けて下さいます。しかし、スピード違反をしていたり、体に有害なものを摂取していたり、主の加護を求めるのは愚かなことです。自分で何の努力もしないで物質的な事柄を求められるはずがありません。行ないの伴わない信仰はむなしいものだからです。(ヤコブ2：20参照)

まれにしか祈りをしていない人は、なぜもっと定期的に、またもっと頻繁に、そして熱心に祈らないのでしょうか。それほど時間が惜しいのでしょうか。それほど人生は短いのでしょうか。それほど信仰が弱いのでしょうか。

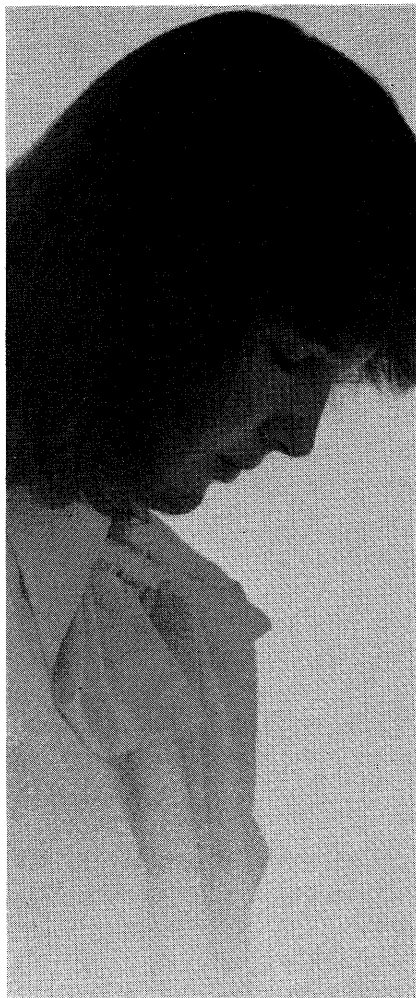
あなたはどのように祈っていますか

取税人のようにですか、それとも尊大な役人のようにでしょうか。(ルカ18：11—13参照)

あなたは個人でひそかに祈る時、主の前に自分のすべてを明らかにしていますか。凝った洋服をまもって、自分の徳が見えにくいようにはしていませんか。あなたは自分の良さばかり強調して、犯した罪を毛布で覆い隠してはいませんか。憐れみ深い天父に慈悲を請うているのでしょうか。

あなたは祈りの答えを得ていますか

代価を払わなければ答えは得られません。あなたは決まりきった言葉を並べ立ててはいませんか。親しく主に語りかけているのでしょうか。祈るべき時にいつも祈るようにしているのでしょうか。



祈る時に耳も傾けていますか。

救い主は言っておられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示3:20)

この約束はすべての人に与えられています。いささかの分け隔ても偏りもありません。しかし、主は大きな音を立てて戸をたたくとは約束しておられません。主は戸の前に立って、こつこつとたたいておられます。しかし、私たちが耳を傾けなければ、主は私たちと食を共にされることも、祈りに答えて下さることもないでしょう。あなたはどのように耳を傾け、理解し、判断すればよいか御存じですか。主はいつもたたいておられます。主は決して戸をたたくのをおやめになりません。けれどもまた、私たちに強いることも決してなさいません。もし私たちが離れることがあるとすれば、離れたのは私たちであって、主ではないのです。祈りの答えが得られないとしたら、自分の生活を調べて原因を見つける必要があります。当然していなければならないことをしていなかったり、してはならないことをしていたりという場合があるものです。目や耳の働きを鈍らせているのです。

ある時、ひとりの若者からこのような質問を受けました。「僕は時々天父をととても近くに感じます。そして、とても快い霊的な力を感じるのですが、なぜいつもそのようになれないのでしょうか」と。それに対して私は、「答えはあなたの側にあって主にはありません。なぜなら主はいつも戸をたたいて、中に入ってこようとされているからです」と答えました。

主に受け入れられているという平安な気持ちを感じられない人は、それを取り戻し維持できるように、あらゆる努力を払って下さい。あなたは耳を傾けていますか。聞こえますか。見えますか。感じることができますか。ニー

主は私たちの祈りに答えて下さいます。これは真実です。しかし、時々、私たちの方が敏感でないために、いつ、どのようにして答えが与えられているかわからないことがあります。ある人々は「壁に書き記された文字」や天使の語る声、天からの声のみを求める傾向があります。

ファイの兄たちのような状態になったことはありませんか。ニーファイは兄たちにこのように言っています。「あなたたちはその御声を時々聞いている。……（しかし）あなたたちはなんらの感じもなかったのでその御声を感ずることができなかつた。」（I ニーファイ17：45）

私たちは主から離れると、俗世の霧に次第に包まれ始めます。これは、イギリス海峡を泳いで渡る人が全身に塗るグリースに似ているかもしれません。グリースで毛穴をふさぎ、皮膚を覆うことによって、海水の冷たさを感じにくくするのです。しかし、私たちがその覆いを取り除いて素顔でへりくだり、生活を清めて心から嘆願するならば、祈りは答えられます。私たちもペテロと同じ状態に到達し、同じように「世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となる」ことができるのです。（II ペテロ1：4、9 参照）

感謝をしていますか。それともお願いするばかりですか

あなたは路傍のらい病人のようではありませんか。（ルカ17：12—13参照）

人前で祈る時、私たちはパリサイ人や偽善者たちのように祈ってはなりません。彼らは人に見せようとして、会堂や通りの角に立って祈ることを好みました。（マタイ6：5 参照）

私たちは皆、主に大きな恩義を被っています。私たちの中にはだれひとりとして完全の域に到達している人はいませんし、過ちのない人もいません。したがって祈りは、純潔や安息日を聖く保つこと、什分の一、知恵の言葉、集会への出席、日の光栄の結婚と同じように、すべての人に求められているものです。他の戒めと同様に、祈りは主の戒めなのです。

計り知れない負債を少しでも返済しようという気持ちのある人は、実は私たちの多くがそうなのですが、イノスの経験を覚えておくことが是非とも必要です。良家の子息の多く

がそうであるように、イノスも邪道に迷いました。彼の罪がどの程度のものであったか私にはわかりませんが、嘆かわしいものであったことは確かです。イノスはこのように記しています。「さて、私は自分の罪を赦されようとして、一心不乱に神の御前に祈ったことについてあなたたちに話をしよう。」生き生きと表現されていて、彼の言葉が印象的です。

「ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行っただが、」一頭もしとめられず、まだ足を踏み入れたことのない道をさ迷っていました。イノスは手を伸ばし、扉をたたいて、罪の赦しを請い求めました。そして、新たに生まれようとしたのです。荒涼とした原野の向こうに美しい平野が見えてきました。イノスは自己を見つめました。彼はこれまで雑草の中で暮らしてきたのです。そして、やっと今、水に潤う地を見いだしたのです。イノスは次のように続けています。

「私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。」

思い出にはつらいことも楽しいこともありましたが。しかし今、イノスは父親が描いていた絵に魂を呼び覚され、心を励まされたのです。思い出が彼のいとわしい過去の扉を開いたのです。イノスは墮落した生活を再び体験することに心の底から不快を感じ、正しい生活をしたいと心から望みました。イノスは新たな者となる道を歩んでいたのです。それは苦しくも報いある道でした。

「そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて」イノスの心は悔い改めの気持ちでいっぱいになりました。イノスは過去の罪を悔いました。そして、以前の罪の体を葬り去り、新たに信仰の人、清い人に生まれ変わりたいと切望しました。

「私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。」

イノスは今や、罪のある人は救われないことと、どんな不潔なものも神の王国に入るこ

とができないこと、罪から清められ、汚れが取り除かれて新しい肉が傷跡を覆うようにならないことを悟りました。新たに生まれた人として心を清め、改心しなければならないことを悟ったのです。そして、心を完全に入れ換えることが並大抵ではないことを知ったのでした。イノスはこう記しています。

「私は本当に一日中神に祈り」

これは気まぐれな祈りでもなければ、決まりきった祈りでもありません。また、ただの一時的な哀願でもありません。それこそ1秒が1分に、1分が1時間にというように、時間の絶え間なく「1日中」祈る姿がそこにあったのです。しかし、日が沈んでもまだ心に安らぎは得られませんでした。当然のことながら、悔い改めはただ悔いればよいというものではありませんし、赦しも代価を払わずに得られる贈り物ではないからです。イノスには、贖い主と親しく交わり、贖い主からよしとされることが大切であり、その固い決意が彼をこれ程までにさせたのでした。

「夜になってもまだ私の声が天にとどくほど大きな声で祈った。」(イノス2-4)

このような嘆願を贖い主が聞かれないということがあるのでしょうか。このイノスのように、一途な心で願い求めたことのある人はいるのでしょうか。重大な罪の有無に関係なく、何時間も祈り続けた経験のある人はいますか。5時間祈ったことのある人は何人いるのでしょうか。1時間、30分、10分ではどうでしょうか。あなたの生活に過ちがある時に、あなたは主のみ前に一心不乱に祈りましたか。寂しさだけのあなた自身の奥深い森に行ってきましたか。どれだけ心が飢えるのを覚えましたか。あなたの必要としていることがどれだけ深く心に刻み込まれたのでしょうか。身じろぎひとつせずに造り主のみ前にひざまづいたのはいつですか。あなた自身の身と霊のために何を祈りましたか。主の承認を請うてどれだけ祈りましたか。一日中ですか。夕やみが迫

る頃になっても、まだあなたは一心こめて大きな声で祈りましたか。それとも決まりきった言葉を言っただけで終えたでしょうか。

心の中であえぎながらも一心に哀願し、真心から誓約するならば、イノスのように主なる神のみ声がああなたの心に聞こえてくることでしょう。イノスはこのように言われました。「イノスよ、汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし。」(イノス5)

あなたは祈りの答えを得ないのは、その答えを理解しないためだとは思いませんか。ある人々は祈りの答えを騒音のように、また別の人々は雷鳴のように感じます。それに引き換え、神のみ声を耳にし、理解して、神に親しくまみえる人々もいるのです。

私たちはひとりで神に祈る時、一切の見せかけやごまかし、偽善、ごう慢な心を捨て去らなければなりません。

神に近づき、新たなる者となるためには祈りが必要です。

また、私たちは祈りを捧げる時、いつも自分が不十分で力の限界があり、知恵に不足していること、何もかも主に依存していることを思い出しましょう。子供と同様に、私たちは自分にとって何が最善か、また好都合であるかを必ずしも知っているわけではないのです。ですから、いつも「みこころが行なわれますように」と祈らなければなりません。教会の指導者に助言を求めたくなければ、それを無視すればよいでしょう。また主に祝福を求めたくなければ、答えに耳を傾けなければよいかもしれません。

しかし、私たちは、そのような人になりたいはずです。そこでいつもこう祈ります。「主よ、あなたのみこころが行なわれますように。慈悲深い父なる神様、あなたが一番よく御存じです。私は感謝してお受けします。」

家庭と教会における 指導者への提案

なぜ委任できないのか

ウィリアム・G・ダイヤー



指導の原則の中で、委任の原則ほど大きな誤解を受けているものはないと思う。ひとりてたくさんの責任を抱えている指導者について、よく次のような言葉を耳にする。「彼ほもっと委任すべきだ。」「なぜ彼女は委任の仕方を学ばないのだろう。」しかし、そう言う人にかぎって、委任とは他の人に責任を譲り渡すことであり、それによって直ちにその責任から解放されることだと考えている。

優れた指導者は、委任したからといって必ずしも自由な時間が増えるものではないということを得ている。長い目で見れば、効果的な委任によって指導者が他の物事にかける時間が多くなることも事実である。しかし当初は以前よりも多くの時間を費やさなければならぬこともある。

簡単な割り当て（アサイメント）、企画を伴う割り当て（プロジェクト）、召しに伴う責任

委任という道具を厄介者扱いせず、十分使いこなすにはどうすればよいだろうか。まず大切なことは、これから委任しようとする責任の内容を十分に把握することである。

1. 簡単な割り当て（アサイメント）

割り当ては、わかりやすく具体的に、一度にひとつずつ与えるのが普通である。話、レッスンの提示、使い走りなどを頼むのがその例である。ある朝、私の16歳の息子がバスケットボールの早朝練習に行くので、車で送ってくれる人が必要になった。私は年上の息子に、私の代わりにこの責任を果たしてくれるかどうか尋ねた。これは割り当てを与えることであり、単一の活動を委任することである。その結果、私の仕事が楽になった。

通常このようにして割り当てられることは1回限りの責任が多く、そのためなかなか新しい技能を伸ばすというところまでいかない。しかし、新しい分野に関心を持ち、訓練を積み才能を伸ばしていく切っ掛けにはなる。

2. 企画を伴う割り当て（プロジェクト）

プロジェクトは、もっと大きく複雑な責任が組み合わされており、そのためにさらに高度な技能が要求される。しかし、割り当ての場合と同じように、継続しては与えられない。

例えば、監督が大祭司グループリーダーにワード部の食事会の準備を委任した。この中には、食事、テーブル、装飾、給仕、プログラムなどを準備する責任が含まれている。そこでグループリーダーは、それらの具体的な責任を多くの人々に割り当てた。

両親は状況の許す限り、子供たちにプロジェクト全体にかかわる責任を与えるべきである。例えば、家庭の夕べの活動を計画する、週一回の買物をする、一週間の献立を作る、食糧貯蔵の見積りをする、など仕事の計画をすべて子供に任せるのである。「布団を敷きなさい」、「これをお隣に返ってきて下さい」、「上着を片付けなさい」、「ゴミを捨ててきて下さい」、「皿を洗いなさい」といったような小さなことばかりを子供に割り当てることのないようにする。

正しく委任されたプロジェクトは、責任を与えられた人にとって大きな成長の機会となる。プロジェクト全体を委任することを恐れて小さな割り当てしかしないのは愚かな指導者や両親のすることである。

3. 召しに伴う責任

召しに伴う責任は、いろいろな活動が無限に続き、割り当てやプロジェクトのように一回限りでその責任から解かれるということはない。

委任された責任は、特別な地位や召しの一部になる。例えば、ステーキ部長は、福祉農場の活動のある高等評議員に委任し、独身成人プログラムを他の高等評議員に委任し、さらに若い男性と若い女性のプログラムや教師養成、スポーツ、その他のプログラムをそれぞれ高等評議員に委任する。

そのほか責任分野が特定の召しや地位に関係のないものでも、必要に応じて委任する場合がある。父親が長男に家族の車を常に整備しておく責任を与える。十代の娘に毎朝家族の聖典勉強と祈りができるように家族を起こす責任を与える。これらはそのよい例である。掃除の範囲を家族で分担し、それぞれが受け持った場所をきれいにしている家庭もある。

自分の責任を引き受けた人は、それが学び、成長するよい機会となり、また、指導者や両親の負担を軽くすることになるのである。しかし、最初のうちは指導と訓練を受ける時間の方が、指導者自身でその責任を果たす時間よりも多くなるかもしれない。

委任する理由としない理由

指導者が責任を委任する理由として、次のふたつが考えられる。(1)その責任を果たすだけの時間、技能、あるいは何らかの援助手段が不足している。(2)責任や活動を行なうことによって、人が成長することを期待する。

反対に、多くの指導者が委任しようとしていない理由として以下のことが考えられる。

- (1). 望むように責任を果たしてくれるという信頼感がない。
- (2). 責任を果たす方法を教えるよりも、自分で行なった方が早い。
- (3). 責任を委任して、それが正しい方法で定められた期限までに行なわれないと、仕事が進まない。
- (4). 委任した相手から質問を受けたり、不平を言われたりすると、かえって多くの問題が生じる。

障害を取り除いて効果的に委任する

しかし、これらの障害は克服できる。以下の提案を役立てていただきたい。

1. やりがいのある割り当てを与える

指導者の中には、むずかしい作業や退屈な責任、あるいはおもしろくない活動ばかりを委任して、楽な責任ばかりを自分で行なう人がいる。これでは委任を受けた人が何ら際立った成長や進歩を遂げられないばかりか、時には怒りや反感を買うことにもなりかねない。家庭の夕べの後の皿洗いばかりを子供にさせ、レッスンを教えたり、活動を選んだり、リフレッシュメントを考えたりする機会を与えなければ、子供は当然不愉快になるであろう。教会や家族における賢明な指導者ならば、委任した事柄を定期的にチェックし、割り当てを受けた人がその責任をどのように感じているか確かめるはずである。

2. 期待を明確にする

他の人に仕事を任せても、任せた人にある程度の責任がある。母親は買物の責任を娘に委任することができる。しかし、家族の食事

や栄養についての責任は、たとえその娘が上手な買物をしなかったとしても、依然として母親にある。そこで母親は自分がほしいものを明確に伝えることが大切である。買物の大切さ、使う金額、買物をする時間、品物の質などについてはっきりと説明しておくことである。もしそれが十分にわかっていないと、娘は知らないままに母親や家族の期待を裏切ることになる。そして、娘は自分の知らなかったことを行なわなかったという理由で叱られたり罰を受けたりする。

3. 必要に応じて訓練する

新しい分野の責任は、それを受けた人にとってまた不慣れであり、すぐに高度なレベルの仕事を期待することはできない。そこで指導者は、その人が望ましいレベルに到達できるように、指導と訓練に十分な時間を費やす必要がある。例えば、神権者にホームティーチャーの責任を与える時、神権指導者は十分な時間をとって適切な指導をはっきりと行なわなければならない。その中には、実際にホームティーチングに同行して、効果的なホームティーチングを行なう方法を教えることも含まれる。このような準備もしないでホームティーチャーに召しても、ホームティーチャーは不十分な働きしかできず、挫折感を味わうことになる。そして定員会指導者はその問題の原因が自分たちにもあることに気づかないということになる。

4. フォローアップ

指導者は、責任を委任したら、自分はそれでゆったりとして仕事の成り行きにまかせておけばよいと考えてしまうことがある。しか

し、フォローアップを行わなければ、仕事は決して順調に進まないであろう。定期的に達成された事柄を調べ、その成果を評価し、計画を調整し、必要な訓練と指導を行なうことである。ただ、仕事をチェックするだけでなく、時間をかけ、意見を出し合い進捗状況を検討してゆくことがフォローアップである。

例えば、教師定員会のある委員会が定員会パーティーと食事の責任を与えられたとする。定員会アドバイザーはまず明確な指示を与え、それをいつまでに各自に割り当て、その結果を報告すればよいかその日付を定める。そしてパーティーの当日になって、あわてることのないようにしなければならない。多くのプログラムが失敗する原因は、割り当てを受けた人を励まし、再度確認をする計画を立てていないところにある。また、フォローアップがないと、責任を受けた人は、指導者がそのプロジェクトに対して興味を失っていると思ったり、関心がないと感じることもある。そしてそれが割り当てを受けた人のやる気をそこなう原因となっている。

5. 個性を尊重する

指導者が期待することを明確に伝え、指示と訓練を施し、フォローアップを行なったとしても、指導者自身が期待するものとまったく同じ成果を求めるのは無理である。指導者というものは、委任を受けた人が自分の才能、個性、方法、経験を生かして自由に責任を果たせるよう配慮すべきである。仕事を任せておきながら、自分の思い通りに事を運ぼうとして常に監視し、規制し、指示を与えるならば、相手はひどい欲求不満に陥ってしまう。仕事には、その仕事を任された人の個性が何

委任は、単に仕事から逃れるために使う手段ではない。それは、指導者が最終的に特定の作業から解放され、委任を受けた人が新しい分野で経験を積んで進歩成長する、非常に広大な計画を持った指導の原則である。

らかの形で表われていなければならない。これは当然そうあるべきことであり、またそれで許されることであり、私たちが認めるべきことである。しかも割り当てを受けた人がその責任を通して成長できるならば、その人は十分にその責任を果たし、指導者が考える以上に立派な仕事を達成するようになるに違いない。

例えば、扶助協会の会長が集会の司会やプロジェクトの監督を副会長に任せたとする。ところが副会長は会長が考えていたのとは違った方法で責任を果たしている。もし会長がそのまま彼女にある程度を認めてやらせてみるならば、副会長のしている方法がこれまでと同じ位効果的であり、またそれ以上の優れた成果を生み出すこともあるだろう。しかし、会長が干渉しすぎて、必要以上にチェックし、絶えず監視するならば、副会長は萎縮して何もできなくなり、成長の機会を失ってしまうことになる。

委任は、単に仕事から逃れるために使う手段ではない。それは、指導者が最終的に特定の作業から解放され、委任を受けた人が新しい分野で経験を積んで進歩成長する、非常に広大な計画を持った指導の原則である。効果的な委任を行なうには、慎重な計画と内容に関する明確な説明、適切な訓練、フォローアップ、そして最後まで任せていく心構えを持つことが肝要である。

さまざまな声

□バート・R・ボーン

いろいろな人から時間を使う要求が寄せられる時、限られた時間で自分のしたいことをどのようにして達成すればよいか、私たちは途方に暮れてしまうことがあります。しかも、その要求は、ほとんどが愛し、尊敬している人たちからのものであり、彼らの勤めることが良いものであり、大切なものであるとわかっているから、なおさら辛いのです。一体、どのようにすればその要求のすべてに応えることができるのでしょうか。

「教会の召しは決して断わらないように。」

「女性はいろいろな有意義な活動に参加し

て下さい。」

「政治や社会活動にも積極的に参加して下さい。」

「家族との時間をもっと取って下さい。」

「母親の務めは女性の一番大切な責任です。」

「もっと家にいるようにしましょう。」

「教会の召しにもっと時間をかけましょう。」

「ひとつのことに夢中になって、家族や教会に対する責任を忘れないようにしましょう。」

というわけで、問題は、家族や教会、職場、地域社会からいろいろな要求がある中で、献身的な末日聖徒はどのように時間を見つけ出



「教会の召しは決して断わらないように。」

「女性はいろいろな有意義な活動に参加して下さい。」

「政治や社会活動にも積極的に参加して下さい。」

「家族との時間をもっと取って下さい。」

せるかということです。

時宜に適した目的

「天が下のすべての事には季節きせつがあり、すべてのわざには時がある。」(伝道3：1) この勧告は昔も今も変わりません。過去の生活や未来の夢に浸ってしまうことは好ましくありません。

例えば、幼児を抱えた母親が知的な刺激を求め、大学時代をなつかしく思って大学生生活に逃避するのはどうかと思います。そうかといって、十代の少女が高校も卒業しないうちに結婚して、母親の責任を引き受けるのもかわいそうな気がします。

いろいろな活動に時間をどう割り振ればよいかは、その人が今人生のどの時期にいるかということに大いに関係してきます。人生の各時期にはそれぞれ特有の目的があって、ふさわしい時にその目的を遂げるようにしてこそ達成があるのです。

優先順位を決める

その時、その場の自分にとって何が一番適切であるか判断するには、優先順位をつけることです。しかし、家族と共に過ごすことと、教会の召しを果たすことのように、ふたつの

良い原則がぶつかった時には、どうすればよいでしょうか。

大切なことは、その時々^{とき}に祈って慎重に考えることです。そして、ある時に良かったからといって、それが次の時にも良いわけでないことを認識するのです。優先順位を決める時には、よく状況を把握して何が一番大切であるかを判断します。例えば、親が子供のそばにいてやらなければならない大切な時には、教会の責任よりもそれを優先します。かといって、ワード部の会員に霊的な助けが必要な時には、息子とフットボールを見ることよりもそちらを先にしなければならないと思います。したがって、家族と教会はどちらを優先すべきかという質問は、はっきりどちらとも決められない愚問なのかもしれません。家族と教会はどちらも非常に大切であり、両方共神様から来るものです。その場の状況次第で先にも後にもなるのです。家族も教会も、大きなイエス・キリストの福音という全体の中の欠くことのできない一部なのです。そこで私たち個人にとって最も必要なことは、私たちがみたまの勧めに従って生活することです。そうすれば聖霊の賜を受けた時に約束されたみたまを受けて、私たちがその時々^{とき}に決める優先順位が主から喜ばれ、主に受け入れられるものとなるはず^{はず}です。

いつまで続くのか

あちこちであまりに多くなってくると、ついふさぎ込んでしまっ^て「一体、いつになったら終わるのか」と嘆く方が先に立ってしまうことがあります。しかし、要求を受けて立つことこそ人生であるとの自覚を持ち、逃避するのではなく、現実を直視して一日一日を楽しく暮らす時にそれは達成されるのです。

例えば、自転車に乗る人はペダルを踏む時に、バランスを取り、自転車を進めることができます。ペダルを踏むのをやめると、バランスを失って倒れてしまいます。

私たちが意気消沈して身動きがとれなくな

った時もこれとまったく同じです。要求が通り過ぎていくのをじっと待って何も活動せずにいると、自分が惨めになってきて、将来の見通しまでも曇ってしまいます。逆にそんな時にこそ活動し、動くようにすれば、バランスを取り、正しい見通しをもって前向きの生活を営むことができるようになるのです。

「指揮者」の原則

調和のとれた生活をするには、自分にかけられる様々な時間の要求を上手にコントロールする方法を知ることです。合唱団の指揮者を考えてみて下さい。立派な合唱団になると、ソプラノ、アルト、テノール、バスなどいろいろの声部に分かれています。一人一人がどんなにすぐれた声学家であっても、まわりの人におかまいなく好き勝手に声で歌い出したらどうなるでしょう。音楽というより雑音になってしまいます。各人が指揮者に合わせて、ちょうどよい時に、正しい声量と表現で歌うと、それは、美しい合唱になります。指揮者は歌い手の特徴をよくとらえて、混乱から調和の取れた美しい讃美歌に変えるのです。

それと同じことが、家族、系図、ホームテューチング、伝道、福祉活動、神殿活動、教会の集会、公民としての責任、隣人との交わりや職場などの要求をどう調和させていくかということについても言えます。もちろん、これらはどれも大切なものばかりですが、それぞれが好きな歌を勝手な音量で歌うのを許してはなりません。主が望んでおられるのは、私たち一人一人が自分の生活の指揮者となることです。主はジョセフ・スミスにこう言われました。「そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。」(教義と聖約 58:28) 歌う音楽が耳ざわりなものになるか、調和のとれたものになるかは、私たちがいろいろな要求を適切な時と所、適切な強さでうまく引き出せるかどうかにかかっています。靈感を受けて上手に調和を取っていくのは、私たちの責任です。つまり、最

「母親の務めは女性の一番大切な責任です。」

「もっと家にいるようにしましょう。」

「教会の召しにもっと時間をかけましょう。」

「ひとつのことに夢中になって、家族や教会に対する責任を忘れないようにしましょう。」

終的な責任は自由意志を行使する私たちの双肩にかかっているのです。

全体を見ること

最後に、「いろいろな人から時間を使う要求が寄せられる時、限られた時間で自分のしたいことをどのようにして達成すればよいか」という質問ですが、数多くの要求を適切な時と時期に応じて生活に組み入れられるように、主に相談しながら優先順位を決めることです。そうすれば、できないことでいつもイライラするのではなく、積極的に楽しい気持ちで、自分のできることを見つけ出して、それを喜んで行なえるようになります。「努めて善き業に従」(教義と聖約 58:27) うことによって調和のとれた生活をめざし、落胆の日々を克服していくのです。私たちの生活が調和のとれた讃美歌の歌声になるか、騒々しい雑音になるかは、時間を求める声をいつどの程度受け入れるかにかかっています。この原則を私たちの人生のいろいろな場に適用することは、私たちにとって予言者ジョセフ・スミスが述べた「私たちが現世にある目的、すなわち幸福を得るための大いなる力となるにちがいありません。

忍耐は 報われました

エリーサ・J・ポールセン

「指 導する前に従うことを学ぼう。」これは、15年前にバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったリチャード・A・ロウ兄弟のこれまでの生活を支えてきた原則です。ロウ兄弟は、当時、黒人に神権が授けられないことを知りながらバプテスマを受けました。

宣教師から福音を学んでいる間も、当然のことながら神権のことが気がかりで、そのことについて祈りました。そうしたある夜、ロウ兄弟は床に入ってから、自分が壇上に立ち、目の前に非常に古い書物の開かれている夢を見ました。紙は羊皮紙のようでしたが、文字は薄く、消えかかっていました。そのページの最後の行に、「現在、黒人は神権を持ってない」と書かれてありました。

正面には大きなつづれ織りの織り物がかかっている、その向こう側に3人の方が立っている感じでした。

「黒人はだめですか。」彼は尋ねました。

すると、「今は与えられない」という答えが彼の心の中に湧き上がってきました。

彼は考えました。「それでは私には神権をいただける時がくるでしょうか。」彼は書物を見るようにと告げられた思いがしてよく見ると、そこには文章がはっきりと記されていました。

「まず第一に真理を求めなさい。そうすればすべてが与えられるであろう。」

ロウ兄弟はこのような直接の確証を得てからバプテスマを受けたのでした。彼は福音の原則を守り、家族に教え、家長としての管理の職を果たすよう熱心に努力しました。神権の力を知っており、神権指導者を信じていたので、しばしば妻や子供たちのために彼らに祝福を依頼しました。それだけでなく、自分でも神権の力によって癒しを得た経験がありました。

ベトナムで従軍中のことです。ロウ兄弟は脳腫瘍のあることがわかり、沖繩の病院に移されました。そして手術を受ける前の晩に教

会の長老から灌油の儀式を受けました。すると恐れや不安は去り、手術の結果に対する心配は失せてしまいました。手術後多少の痛みはありましたが、視力や聴力の回復は目覚ましく、ベッドに座わることさえできるようになりました。医者たちもこれには大変驚いていました。主治医は「あなたは何かの力に助けられている」と言いました。

主がロウ兄弟を愛し、心にかけておられることは、1978年2月に受けた祝福師の祝福からもよくわかります。ロウ兄弟は、「時が来れば、福千年中かそれ以前に、あなたは神権を受けるでしょう」と約束されていました。彼はいつかこの約束が成就される時がくることを知って喜びましたが、その時がこれほど早く来るとは夢にも思いませんでした。

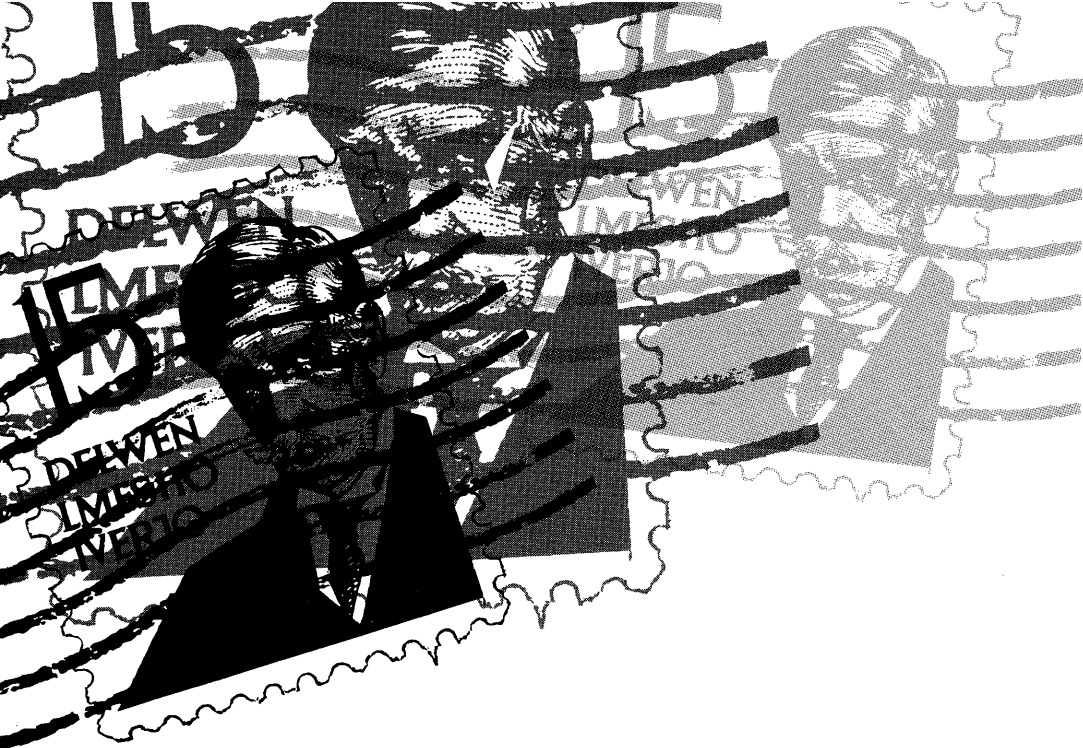
その知らせの電話が届いたのは、1978年6月9日の午後でした。ロウ兄弟は机に向かって仕事をしていました。奥さんの声はいつもと違って、少し上ずっていました。「あなた、素晴らしいニュースですよ！」そう言って彼女は泣き出してしまいました。それから気を取り直すと、スペンサー・W・キンボール大管長が、ふさわしい男性はすべて神権を受ける

ことができるという啓示を受けたことを伝えました。ちょうどその時同じ会社で働いているふたりの友人が（ひとり教会員でもうひよりは求道者でした）ロウ兄弟のところに駆けつけて来ました。彼らもすばらしい知らせを聞いて、人生を一転させるに違いないその知らせを友人に一刻も早く知らせたかったのです。3人は肩を抱きあって泣きました。

ロウ兄弟は次の日曜日に神権を受け、七十人第一定員会のロバート・D・ヘイルズ長老から長老の職に聖任されました。

ロウ兄弟の家族は献堂前のワシントン神殿を訪れた時、神殿に入れるのは生涯で今回だけだと思っていました。しかし今や、その同じ神殿に参入して、この世と永遠にわたって家族の結び固めを受けることができるようになったのです。

ロウ兄弟とロウ姉妹には養子の子供たちが3人います。10歳のロバート、9歳のレイニー、8歳のカーラです。大管長の声明に対するロバートの言葉には福音に対する彼らの素直な気持ちが表われています。「パパ、ぼく、銀行に行って伝道費用を貯金しなくちゃ。1ドルちょうだい。」



ただ切手代さえ惜しまなければ

ローナ・バーネット

ドリスは不活発会員でした。教会に来なくなってあまりにも長いので、だれも彼女のことを覚えていません。私はワード部の初等協会会長でしたので、彼女の4人のお子さんたちに何度となく招待状を送りました。しかし、どれも切手のむだ遣いのようなものでした。

住んでいる所がまずひとつの問題でした。彼女はニューヨーク州北部にある小さなワード部から72キロも離れた所に住んでおり、その地域ではたったひとりの会員でした。住所が遠いこともあって、ここ数年間ホームテッチャーも扶助協会の訪問教師も訪問していません。

それでも私たちは、お子さんたちを初等協会に誘い続けました。誕生日にはカードを出して、私たちの思いが届くように祈っていました。

そんな時、ドリスに新しい訪問教師が割り当てられました。その姉妹は、ドリスの家を訪問するとなると往復145キロにもなるので、とても訪問は無理でしたが、毎月ちょっとした手紙を書くことや、「ワード部だより」を送ることならできると思いました。

やがて手紙やカードの効果が現われ始めました。ドリスが新しい訪問教師に返事を書いてきたのです。「あなたが私のことをまだ教会

員と思っていて下さることを知ってとてもうれしく思いました。教会へはもう5年も出席していませんが、今でもモルモンであることを誇りに思っております。」こうして文通が始まりました。訪問教師は毎月ドリスに簡単な手紙と「ワード部だより」を送りました。そしてほとんど毎月のように、ドリスから返事がきました。

ある冬の寒い日のことです。扶助協会に見慣れない人がふたり来ていました。ドリスと近所の友達でした。ドリスは運転ができないので、教会員でない友達にお願いして、往復145キロの道のりを扶助協会に連れてきていただいたのです。

私たちはドリスと初対面のような気がしませんでした。彼女は証を述べ、救い主の愛と、教会が真実であることについての強い信仰を私たちに示してくれました。集会の後、私は遅ればせながら彼女の家を訪問する約束をしました。監督の許可を得て、ドリスに教師になってもらい、ホーム・プライマリーを始めたいと思ったからです。

私が副会長と一緒に小型車を運転して見知らぬ田舎へ向かったのは、ニューイングランド地方特有の雪の降りしきる日のことでした。道は悪くて、ふたりとも内心では天気の良い別の日にすればよかったと思いました。でも、ドリスをこれ以上長く待たせてはいけなそう思ひ、約束通りに訪問しました。

私たちは十分な報いを得ることができました。きれいに整理されたドリスの家でくつろぎながら、私たちは彼女から次のような話を聞くことができたのです。5年前に宣教師の訪問を受けた時、彼女は福音の教えに喜んで耳を傾けました。ご主人はあまり関心を示しませんが、それでも彼女がバプテスマを受けることは許してくれました。

でも、それからが大変でした。家から教会まで70キロ以上も離れていて、近くに教会員はおらず、自分で車を運転することもできませんでした。ご主人が彼女を教会まで連れて

来られればよいのですが、そういう気持ちもありません。ホームティーチャーや訪問教師が来るには遠すぎます。彼女はこの教会に対する証を持ち、自分の生活にはまたとない祝福だと感じていました。しかしその証を強めることができなかったのです。

ところが間もなくして、心ある監督が彼女の必要に気づき、双子の子供が日曜学校に該当する年齢の3歳になった時、3コースのテキストを送ってくれたのです。はるばる教会に行けなければ、自分の家で教会の活動をすすめるしかありません。彼女は自分が学んだ福音のよきおとずれを子供たちに教えました。

この5年間、日曜ごとに毎朝、4人の子供を集め、3コースのテキストを使って教えました。ですから子供たちは同じテキストを5回もきちんと学んできたのです。

ワード部の人々が自分のことを心にかけてくれていると訪問教師を通じて知った時、彼女の感激はどんなに大きかったことでしょうか。私が持っていった新しいレッスンのテキストとかりゅうどのペナント、CTRバッジを受け取った時の彼女の喜びをご想像下さい。

現在は状況も昔とはだいぶ変わってきました。家からもっと近くに教会の支部ができて、同じ村に教会員が住むようになったのです。今では彼女は毎週日曜日に子供たちを連れて、真の教会に集えるようになりました。

新しい支部ができたので、ドリス家の会員記録は私たちのワード部から新しい支部に移されました。今は彼女に会うこともめったにありませんが、私は、初等協会に来ていない子供たちのリストを見るたびに、私たちの助けを待っているドリスのような人がどれだけいるだろうかと考えてしまうのです。私たちの努力次第で、どれだけ多くの兄弟、姉妹、子供たちが心を動かされ、再び教会に集うようになることでしょうか。ドリスの場合のように、すでにこの囲いの中にいる人を強めるには、それほど大きな犠牲は必要としないことでしょうか。ただ切手代さえ惜しまなければ。

「この方です。どうぞ話して下さい」

ブルース・C・ヘイフェン



私はドイツで伝道するように召されてちょうど1年経った頃、キーラー長老という新しい宣教師と一緒に働くことになりました。彼の話では、ニューヨークを飛ってフランクフルトに着くまでの間に、飛行機のスチュワーデス全員を改宗させたとのことでした。本当にそのように思い込んでいたのです。彼が到着した数日後、私は別の町の集會に呼ばれたため、彼ともうひとり経験の浅い宣教師とを残して、ほかの宣教師とその集會に出かけました。夜遅く帰宅した私は、翌朝、留守中の様子を彼に尋ねました。すると彼は、満面に笑みを浮かべて、必ず教会に入るに違いない家族を見つけたと言いました。私たちの伝道中は、改宗者を得ることが非常に難しく、ましてや家族など思いもかけないことでした。そこで私はもっと詳しく尋ねました。しかし、彼はその家族の名前と住所を書き留めるのを忘れていました。ただ覚えているのは、その家族が大きなアパートの最上階に住んでいるということだけでした。「とにかく、それは素晴らしい。」私は高層アパートの階段を想像していました。彼はまた、ドイツ語があまりわからなかったので、対応に出た女性と二言三言、言葉を交わしただけだということです。それでもこの女性は私たちにまた来て欲しいと思っているようだったので、ぜひもう一度彼女を捜し出して、私に詳しい話をしてもらいたいということです。私は、目の前で戸をボタンと閉めなかったからといって、皆がみな教会に入るわけではないと言いました。それでも、とにかく彼の気がすむように、その女性を捜しに出かけました。キーラー長老は何という通りかも覚えていないので、こちらで見当をつけて、あちこちのアパートを巡り、一つ一つの階段を上って行って捜しました。

しばらくそんな空しい時を過ごしてから、私は率直に自分の気持ちを話した方がよいと

思いました。これまでの経験から、もうこれ以上彼女を捜すのは時間の無駄だと言いました。私はこれまでに現実の伝道活動がどうか、その忍耐も養われてきていましたし、少なくとも彼よりは伝道について知っていると思っていました。ところが、キーラー長老は目に一杯涙を浮かべて、唇を震わせながらこう言ったのです。「ヘイフェン長老、私は心の正直な人を捜しに伝道に来ました。みたまが、あの人は教会員になると教えて下さったのです。」私はそこまで言うのであれば、とにかく彼の言う通りにやらせてみようと思いました。階段をあちこち捜し回り、彼があきらめるまで続けました。そしてもうこのへんで気がすんだらうと思って尋ねたのです。「キーラー長老、これだけ捜せばもう十分でしょう。」「いいえ、どうしても彼女を見つけなければなりません。」私は少し腹が立ってきました。「それなら、彼があきらめるまで続けよう。そうすればわかるだろう。」

それからしばらくして、私たちは長い階段を上った最上階でめざすアパートを見つけました。そしてあの女性が玄関に出てきたのです。キーラー長老は私の脇腹を肘でつつきながら、こう言いました。「この方です。どうぞ話して下さい。」

兄弟姉妹の皆さん、先日、その女性のご主人がわが家を訪ねてこられました。総大会に出席するためにユタ州に来られたのです。彼は今、マンハイムワード部の監督をしています。ふたりの息子さんは伝道の準備をしていますし、奥さんも娘さんも教会で熱心に働いています。あの出来事は、知識や経験からくる疑いの気持ちには限界があるということを私に教えてくれました。私はこの出来事を決して忘れないでしょう。「現実」に目を奪われて、天からのささやきを聞き過ごすことのないようにしたいと思います。

通りの向こうに住む家族

0・モレル・クラーク

私たちは1937年の秋に、オグデン第4ワード部に移ってきました。私はワードティーチャー（ホームティーチャーの前身）として、10軒の家族が住めるように改造された、古いひとつの建物を割り当てられました。

12月のある夜、ワードティーチングで訪問中に、その建物の南側にトレーラーハウスがあるのに気づきました。そこがどこかのワードティーチングの地区に入っているとも思われませんが、とすれば、そのトレーラーハウスの住人はワードティーチャーの訪問を受けていないはずで、そこで私は、意を決して訪ねてみることにしました。

ドアをノックすると、青い目をした金髪の婦人が出てきて、自分たちは末日聖徒ではないと言いました。また、最近カンサス州から引っ越してきたばかりだとのこと。私は数分間で手短かに、ワードティーチングについて説明しました。

彼女の応対があまりにもよかったので、私はジョセフ・スミスが受けた最初の示現と、モルモン経の由来についても簡単に話しました。そして、モルモン経をお届けしたら読んでいただけますかと尋ねました。

すると、「はい、読んでみましょう」との返事でした。

私は初め、モルモン経をただ貸すつもりでした。ところが、帰宅して書棚からモルモン経を取り出した時、その本をプレゼントしようという気になりました。彼女の名はマクシーン・プロッツマンで、ご主人はポールです。私はこのふたりのために、見開きのページに、この書物をよく研究して下さいという励ましの言葉を短く書き添えました。そして、プロッツマンさんの家に届けたのでした。

それから間もなくして、ワードティーチン

グの担当地区が変わりました。そして数年が経過し、私はその時のことをすっかり忘れていました。

やがて15年の歳月が流れました。そうしたある日、再びあの時のことを思い出させる出来事が起こったのです。妻と一緒にダンス教室に通っていた私は、休憩時間に、ひとりの金髪女性がじっと妻を見つめているのに気づきました。しばらくして、その女性が妻に話しかけてきました。「もしかして、私を御存じではありませんか。」妻は「いいえ、存じませんが」と答えました。

「そうですか。私、ご主人を存じ上げております。私に初めて福音を伝えて下さった方ですわ。」

そこで私は口をはさみました。「いや、何かのお間違いでしょう。以前にお会いした覚えもありませんが……」

「あなた、モレル・クラークさんではございませんこと？」私は驚いて、「ええ、そうですが」と答えました。

彼女は言葉を続けました。「私、モルモン経を見るたびに、あなたのお名前と、真心を込めて読めば必ずモルモン経が真実であるとわかると書いて下さった約束の言葉を思い出しますのよ。」

すると、トレーラーハウスやワードティーチング、それにプロッツマン夫妻のことが少しずつ記憶の中によみがえってきました。彼らは私が贈ったモルモン経を読んで、ワード部の集会に出席するようになったのでした。そして、ステーキ部宣教師から福音を学び、家族でそろって教会に入ったのです。その後、プロッツマン家族は北オグデンに引っ越してそこに家を建て、ワード部の活発な会員となりました。

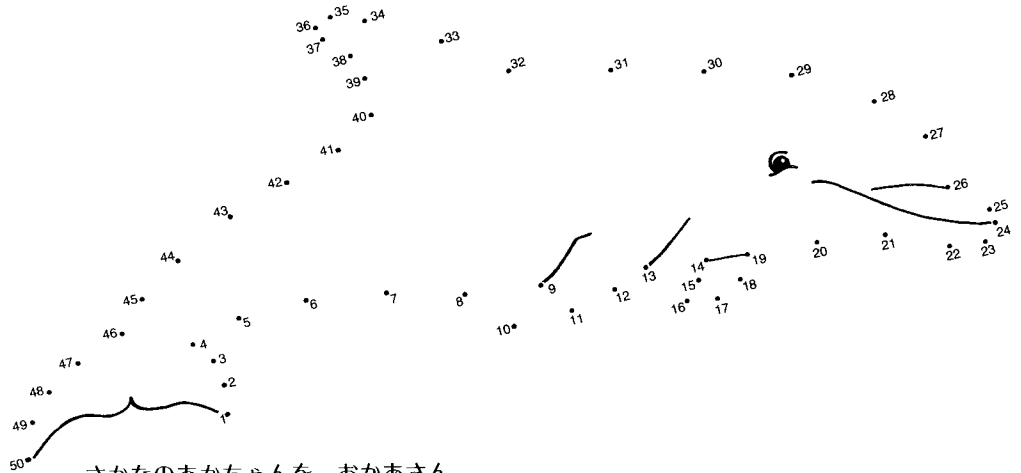
彼らの生活を変えるきっかけとなったのは、ほんのささいな「もう一歩」前に進む気持ちだったのです。私を彼らの家に導き、モルモン経のことを証させたみたまの勧めが、プロッツマン家の人々を教会に導いたのです。



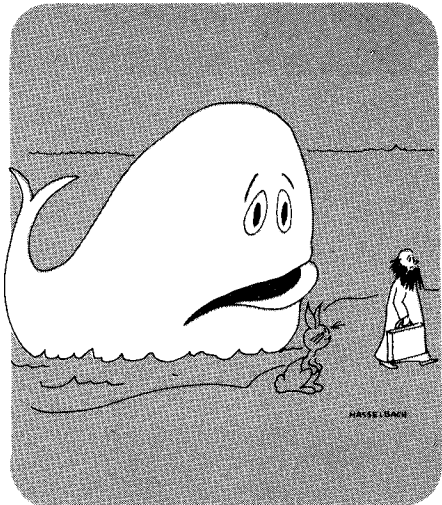
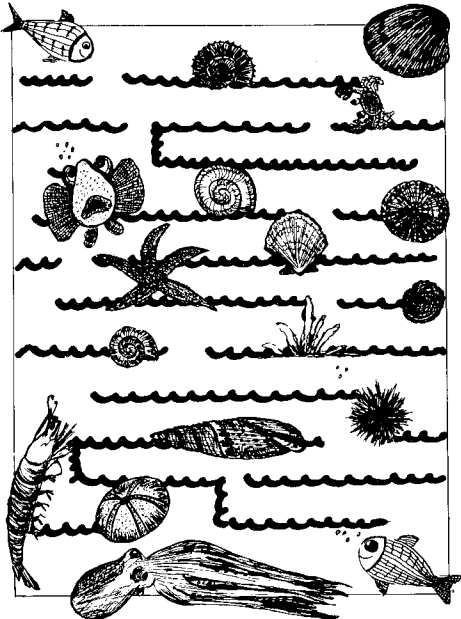
ちい とも
小さなお友だちへ



てんをむすんで いろをぬりましょう



さかなのあかちゃんを、おかあさんのところにあんないしてください。



ああ、ヨナがでていってくれてよかった。
 ひどいめにあったよ。

愛する みなさんへ

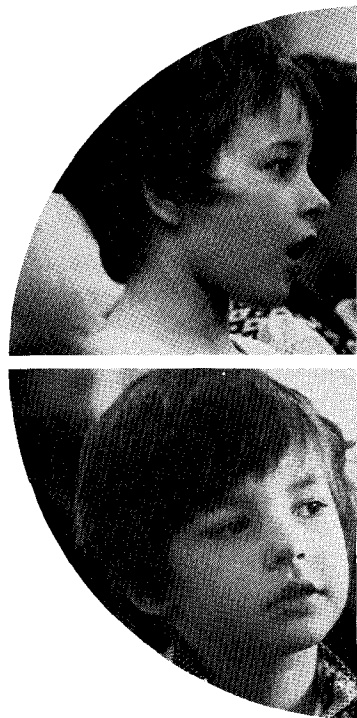
みなさんは、特別な人です。わたしたちは、みなさんが天のお父さまや、イエス・キリストさまにとって、大切な子供であることをよく知っています。福音ふくいんのある時代に生まれて、末日まっしつせい聖徒イエス・キリスト教会に入ることができたみなさんは、なんと祝福されていることでしょう。

けれども、今は大変な時代でもあるのです。どの時代の人たちよりも、た

くさん試たのされることでしょう。みなさんは、いつも正しいことを選ばなければなりません。サタンサタンの言うことをきく人たちが、みなさんに悪いことを教え、悪いことをさせようとするでしょう。そんな時には、悔い改めくあいたや、いましめを守ることの大切さを思い出してください。そして、いつも罪つみをおかさないようにして、自分を清くしてください。

救い主は
あなたを愛して
くださっています

大管長
スペンサー・W・キンボール



「どんな不潔なものも神の王国に入ることができない」(I ニーファイ15:34) からです。

一番大切なことは、天のお父さまのいましめを守ることです。そのためには、お父さんとお母さんの言いつけをよく守ることが大切です。また、聖典を読み、教会に出席し、ほかの人たちに教会のことを教えることも大切です。いつもみなさんを導いてくださる天の

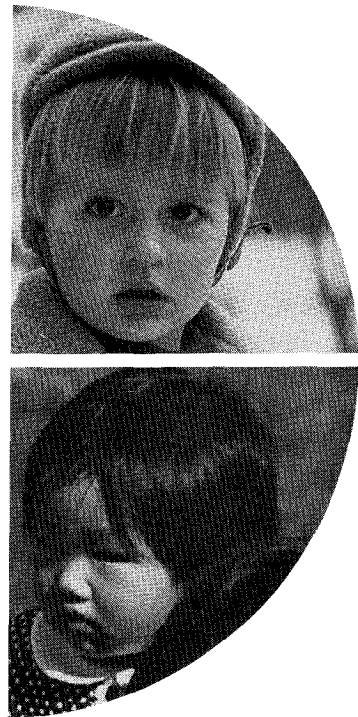
お父さまに、祈るようにしてください。

愛する皆さん、時間をじょうずに使うようにしてください。テレビの番組も、よく考えて選ぶようにしましょう。よい音楽をきいたり、よい本を読んだりすることも大切です。また、遊びや友だちも注意して選びましょう。

福音の教えを守って、人びとのよいもはんになるようにしましょう。お父さんとお母さんを敬い、天のお父さまへの愛を示してください。

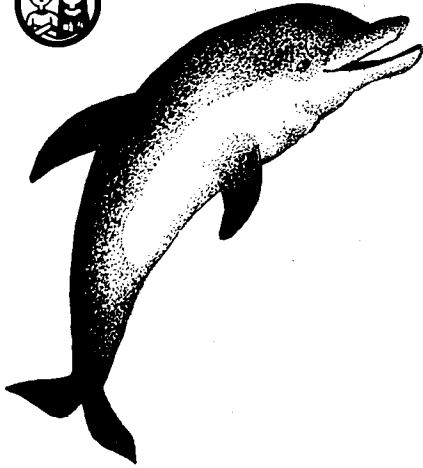
救い主は、みなさんを愛してくださっています。イエスさまはまだこの地上にいらっしゃったとき、子供たちをよびよせて、祝福されました。子供たちのために、天のお父さまに祈られたこともあります。また、教会のしどう者もみなさんを愛し、みなさんのために祈り、みなさんのことをいつも考えています。

ですから、みなさんはいつも、天のお父さまや、お父さん、お母さんに正直で、誠実であるようにしてください。



なんでもできるイルカ

ジョアン・アンドレ・ムーア



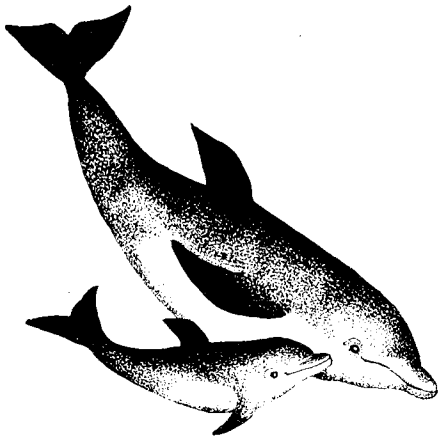
みなさんは、^{あたま}頭に^{はな}鼻のある^{どうぶつ}動物を^し知っていますか。

イルカは、アザラシのような^て手、サメのような^せ背びれ、クジラのような^ししっぽがあります。でも、^{さかな}魚ではありません。^{うし}牛や^{うま}ブタ、^{おな}馬と同じ^ほに^{ゆう}ゆう動物^{ぶつ}なのです。

でも、イルカは^{うみ}海^すに住んでいます。^{うみ}海は とても楽しい^{ところ}です。イルカは、^{なみ}波^まをすいすい^{およ}ぐため、^け毛の^{ない}すべすべの^{からだ}体^をしています。また、^{みず}水^{なか}の中でも^{そと}外^{でも}よく^み見える^め目とよく^き聞こえる^{はり}の^{あな}の^{よう}な^{みみ}耳^があります。^{した}下^{あご}にある^{きかん}器官^で聞く、^{かなが}か^{かがくし}がくしと^{かんが}考えている^か科学^者もいます。

100もある^する^{どい}小^{さな}歯^はは、^{さかな}魚^を食べるのに^{べんり}です。ひれや^ししっぽは、^{ほう}方^{こう}をとるのに^{つか}使^{います}。^{あたま}頭^{の上}の^{あな}で^{いき}きを^し、^{ふか}深くも^ぐると、^{あな}は^{ふさ}がります。^{ふつう}は、^{びょう}30秒^{ごと}に^{うみ}海^{の上}に^{うえ}出て^{きて}息^をしますが、^{なが}長い^{とき}には、^{ふんかん}7分^間も^もぐ^{って}いる^{こと}があります。

イルカの家^かぞくは、わたしたちの^{よう}うに、^{なか}よし^{です}。生ま^{れた}ばかり

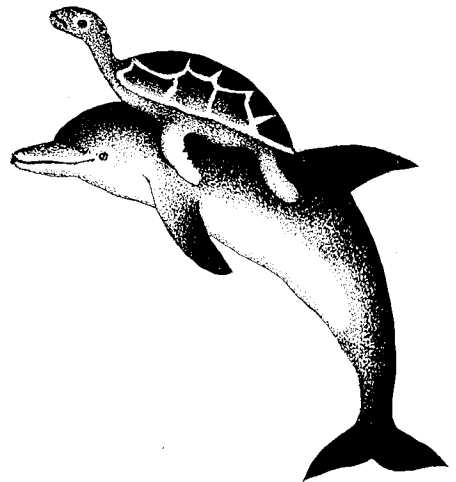
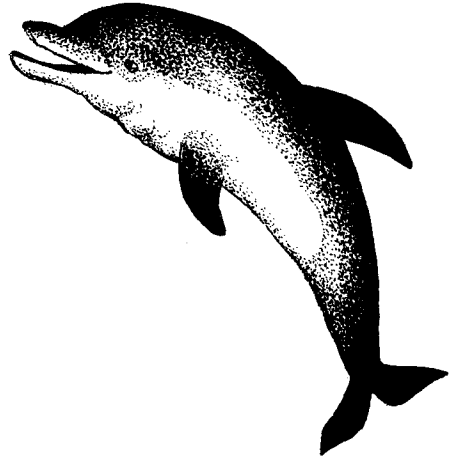


のイルカは、子牛や子馬のように、見
ることも、聞くことも、ひとりで動く
こともできます。生まれるときは、お
ばさんイルカが手つだいにきてくれま
す。赤ちゃんイルカは、一年くらいは、
お母さんのそばにいます。

イルカの家ぞくは、ときどき、むれ
になって、旅をします。サメやクジラ
がくると、わになって、子イルカをま
もります。親イルカは、かみついたり、
ぶつかったりしてたたかいます。

イルカは、おたがいにしんせつです。
びょうきやけがをしたり、なにかがお
きたりしたときは、助け合います。そ
の思いやりは、人間とまったくかわり
ません。

イルカの子どもは、あそぶことが大
すきです。海の魚とおいかけっこをし
たり、しっぽをひっぽっていたずらし
たりします。アクロバットは、おとく
いのあそびです。ちゅうがえりやか
いてんを、見たことがあるでしょう。ゲ
ームも、はつ明します。海ガメをせ中
にのせたり、ペリカンのはねをとりあ
ったりして。あまりいたずらがすぎる

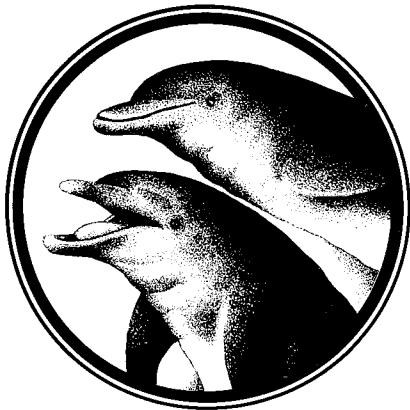


と、お父さんイルカがやって来て、おしおきをします。

水ぞくかんのイルカは、たくさんのがいができるように、れんしゅうします。わをくぐりぬけたり、ぼうをとびこえたりするイルカの脳は、人間と同じくらいの大きさです。

学者たちは、なんでもできるイルカに、かんしんしています。イルカは、動物の中で一番かしこいかもしれませ

ん。イルカたちは、いきをするあなから、ギーッ、ギーッという音を出して、おしゃべりをします。人間には、ドアのきしむような音に聞こえますが、イルカは、その一つ一つの音を、聞きわけ



ているのです。この音は、水をつたわり、岩や船、魚やクジラに当たって、イルカにもどってきます。これがこだまです。イルカは、水中でこのこだまを聞いて、それが何で、どんな大きさや形をしているか、またどのくらいはなれたところにあるかを知るのです。

イルカの出す音は、たくさんあります。口ぶえやほえる声、うなり声、ねこのような声、泣く声、きしむ音など。学者たちは、この音はことばだと考えています。それぞれの音が、いみのあることばなのです。これは、イルカ語ともよばれています。イルカはかせのジョン・リリー教授は、もっとイルカのことを知るために、イルカ語の勉強をしています。

ギリシャには、イルカと子どもが友だちになった昔話があります。また、ニュージーランドに住む、オポという名の女の子は、イルカを友だちにしています。

イルカは人間がすきなようです。

アイスランドに、ケワタガモがす
作り^{つく}にやってくる^く きせつ^{きせつ}のこと
です。ジョンと妹のアンナは、小川^{おがわ}の
ほとり^{いへ}の家の前^{まえ}に立ち、空^{そら}にまう^{まう} う
つくしいケワタガモを^ながめていま
ました。アイスランドの人^{ひと}はみな、わた
り鳥^{どり}を見るのが^みすきです。

「ぼくたちのいりえに、カモがおり
てこないかなあ。そうしたら、うんと
かわいがってあげられるのに。」

「すを作^{つく}って たまごをうむわね。」

「そうだね。親^{おや}どりは ひなをあた
ためるために^{ひと} むねのはねをぬいて
すを作^{つく}るんだよ。」

「わたしたちのところへ^き 来てほし
いわ。」

ふたりは、むちゅうで話^{はな}しました。
うちへ帰^{かえ}ると、お母^{かあ}さんは ぬいも

のをしていました。ひざの上^{うえ}の 明^{あか}る
い色^{いろ}をしたぬのに、はり^{ひか}が光^{ひか}っていま
す。

「もうすぐできるわよ。中^{なか}に入れる
はねがあると いいんだけど。はね
ぶとんにすると、つぎ^{つぎ}の冬^{ふゆ}は、あたた
かくねむれるでしょうね。」

アンナは、戸^と口^{ぐち}へ走^{はし}ってゆき、「どう
か にわにすを作^{つく}りにきてちょうだい」
と、空^{そら}にまうカモにいいました。

すると お母^{かあ}さんが、ふたりにきれ
いな^いのこりぎれをわたして いいまし
た。

「さあ、にわにきれを、つるしてい
らっしゃい。そうすれば、集^{あつ}まってく
るかもしれないわ。」

ジョンとアンナは、いそいでにわへ
行^ゆき、きれをさいて 木^きや石^{いし}の上^{うえ}にの

はねぶとん

ドロシー・S・アンダーソン



せました。そして、まだからカモのよ
うすを うかがっていました。

「まっているあいだに、お父^{とう}さんか
らもらった木^きぎれで なにかほってみ
たら。」また お母^{かあ}さんがいました。

「なにをほるの、おにいちゃん。」

「わからないよ。」

ふたりは、顔^{かお}を見^みあわせました。

そのとき、2わのカモが、小^お川^{がわ}のほ
とりへ まいおりにきました。ジョン
とアンナは いきをころしました。お
母^{かあ}さんは はりを動^{うご}かす手^てを休^{やす}め、カ
モを見^みまもっています。

ケワタガモは、人^{ひと}をおそれません。
アイスランドでは、だれも鳥^{とり}をうった
り、つかまえたりしないからです。

ジョンとアンナが見^みていると、カモ
が、にわにちらかっている 木^きぎれの
ほうに歩^{ある}いてきました。でも、そのあ
とすぐに、ほかのところへ とんでい
ってしまいました。アンナは、がっかり
しました。

「なぜ とんでいってしまったのか
しら。」

アンナのそのことばで、ジョンは、
ひとつのことを考^{かんが}えつきました。

「なにをほるか、わかった。ケワタ
ガモをほるんだ。木^きのカモをなかまだ

と思^{おも}って きつとやってくるよ。」

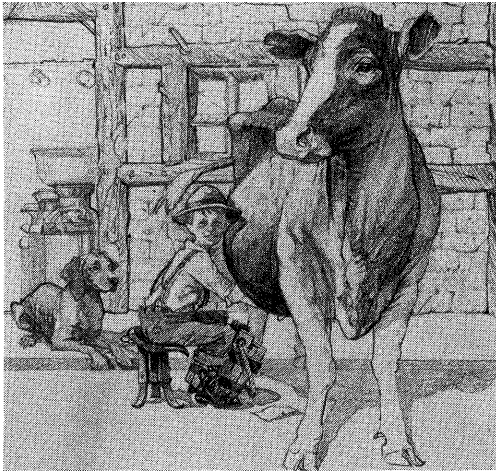
「そうだわ。そして カモがよく見^み
えるところに それをおくのね。」

「やねの上^{うえ}は どうかしら。」お母^{かあ}
さんが いました。

こうして ジョンとアンナは、木^きの
カモをほり、色^{いろ}をぬりました。そして
お父^{とう}さんに やねの上^{うえ}に のせてもら
ったのです。

まもなく 数^{すう}わのカモが やねの上^{うえ}
のカモを見^みつけ、小^お川^{がわ}のほりに す
作^{つく}りにやって来ました。カモは やわ
らかいはねのすに たまごをうみ あ
たためました。ひながかえると、よち
よちと、ジョンとアンナのうちのにわ
に やって来ました。

ついに、カモがとんでいってしまう
冬^{ふゆ}が おとずれました。ふたりは か
なくなりました。でも カモは、す
にたくさんのはねを のこしてくれま
した。そのやわらかなはねは、お母^{かあ}
さんのぬったふとんに つめられ、はね
ふとんができあがりました。あたたか
なケワタガモのはねふとんは、ジョン
とアンナの長^{なが}い冬^{ふゆ}を やさしくあたた
めてくれたのです。



謙遜に、しかも威厳と 誉れをもって

D・アーサー・ハイコック

ある時、私はキンボール大管長に連れ立ってアリゾナの大管長のお宅をうかがった。私たちは大管長が幼ない頃を過ごした家の中を見て回った。らせん階段を登って行くと、がらんとして何もない部屋があった。執事になる前の男の子が、ランプの明かりで聖書を読んだ部屋である。その二階の部屋の窓から外を見ると、裏手に牛のいた小屋が見える。少年はその小屋で毎朝毎晩、昔ながらの方法で9頭の牛の乳をしばっていたのである。そして、乳をしばりながら、信仰箇条や讃美歌、十戒を覚えた。小さなカードに書き込み、乳しばりをしながらそれを見て覚えたのである。

このようなことから彼は、自分の行なうことと、行なわないことをはっきりと決めたのである。彼は成長するにつれて、世の中には善いことと、悪いことが多くあることを知っ

た。そして、たとえだれかからタバコを勧められてもそれを断わろうと決心した。紅茶やコーヒーを出されても、飲まないようにしましょう。不道德なことや嘘、不正を強いられても、しないようにしましょう。彼がこのような決心をしたのは、まだ執事にもなっていない少年の頃だった。彼は母の言いつけに従い、戒めを守ろうと決心したのである。

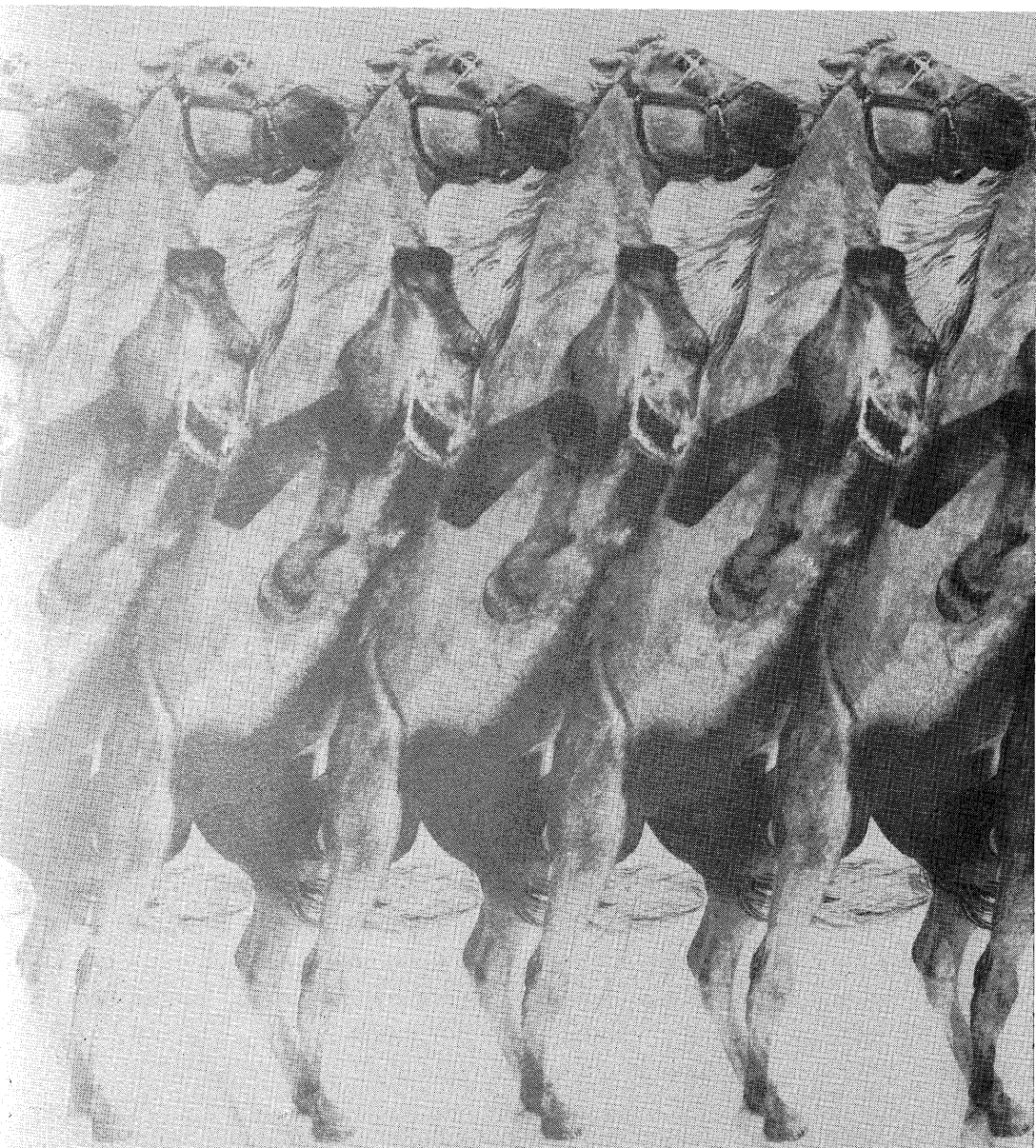
彼が大きくなると、周囲の少年たちが次から次へと、「スペンサー、タバコどうだい？ ウイスキーは？ コーヒーは飲むかい？」と誘いかけてきた。しかし彼は、そのような少年たちの気持ちを傷つけることで悩んだりしなかった。一度断わっておけばあとはたやすい。キンボール大管長はいつもそのようにして、若い頃を過ごしてきたのである。

私は、若人の皆さんにお勧めしたい。予言者がずっと昔に「いいえ」とはっきり言うことを決心したように、皆さんも「いいえ」と言えるようにしてほしい。そうすれば、やがて世の中に出て、両親から離れても、「いいえ」とはっきり言えるはずである。もし皆さんが今そう決心するならば、それは決してむずかしいことではない。そして神権を尊び、神権の召しを全力を尽くして遂行することもできるはずである。さらに父母を敬うこともできると思う。

さて、私は大管長の秘書として申し上げたい。キンボール大管長は神の予言者である。大管長のそばで働くようになってもう5年になるが、主は私に大管長が神の予言者であることを教えて下さった。福音は真実である。ジョセフ・スミスは予言者であった。また神は私たちの御父であり、イエスはキリストにして私たちの長兄である。この証をイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

備えの神権

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・ハッカー



私には7人の息子がいます。私はこれまで彼らのお陰でいろいろな事柄を学んできましたし、彼らをととても頼りにしてきました。時には、家に私のほかにメルケゼデク神権者がもうひとりいることもありましたが、そんな時はほとんどまれでした。長老の職を持っている息子たちは伝道に出ているか、結婚して家を出ているかで、家にいるのはアロン神権者ばかりでした。私は家をあけることが多いものですから、神権を持つ若い息子たちには本当に感謝しています。

きょうは、この神権について若い兄弟の皆さんにお話したいと思います。まず私たちの家族の経験を幾つかお話ししましょう。何年も前のことですが、息子たちは夏になると祖父の牧場に出かけ、そこで一夏を過ごすようにしていました。12年前のこと、息子のひとりがそこで生まれたばかりの馬をもらい、育てるようになりました。その小馬は牧場で他の馬と一緒に放し飼いにされていました。そして2歳になった時、乗馬用にならすことになりました。ある年の夏、私たちは少し早目にその牧場を訪れました。そして私たちは一日かかって、やっと馬を全部さく囲いの中に入れました。それから息子の馬を溝に追い込み、丈夫なはづなをかけ、太い綱をつけて大きな柱につなぎ、そして息子にこう言いました。

「このまま2、3日動かしちゃいけない。綱に慣れておとなしくなるまではね。」私たちは朝からこの仕事にかかりきりで、ようやく食事の時間をとることができました。息子は急いで食事を済ませると、自分の馬のところに戻って行きました。その時息子は14歳、何よりその馬をかわいがっていたのです。

私たちが食事を終えたちょうどその時、何やら物音がし、それから叫び声が聞こえました。私には何が起こったのか、すぐに察しがつきました。息子が馬の綱をほどいてしまったのです。私があればどだめだと注意していたのに、息子は自分の手で馬をならしたかったのでしょう。彼は馬を逃がさないように、



自分の手首に綱をくくりつけていました。私が外に飛び出した時にはすでに馬は走り出しており、息子がその後を、引っぱられるようにして大またで追いかけていました。そして転んでしまいました。馬がもしも右に曲がっていたら門を通り抜け、山の中に走り去っていたかもしれません。けれども幸い左に曲がったので、囲いの中に追い込まれたような状態になりました。馬が出口をさがしているすきに、私は息子の手首から綱をほどき、それを杭に結びつけました。息子は体のあちこちにあざをつくっていましたが、大したけはありませんでした。

それから、私たちは馬をもう一度しっかりとつないで、父と息子の話し合いを始めました。私は息子にこう話しました。「いいかね、もしあの馬をならそうと思うのなら、腕の力のほかにも何かを使わなければならない。馬はお前より大きいし、力もあるのだから。いつかお前にもあの馬を乗りこなせる日が来るだろうが、それには馬の訓練をしなければならぬ。腕力で馬をならそうとしてもだめだ。お前よりも馬の方が大きいし、力もあるし、荒っぽいのだから。」

それから2年後、春に私たちは再び牧場を訪れました。例の馬は他の馬に混じって冬中元気に走り回っているということでした。そこでさっそく馬を見に行きました。川岸を下ってくる馬の群れが見えました。私たちが近づけば馬は逃げ出してしまおうだろうと私は思っていました。すると、息子と娘はバケツにオート麦を入れて、静かに野原の方へ歩いて行ったのです。馬の群れはゆっくり移動を始めました。その時、息子が口笛を吹きました。すると例の馬が群れの中から姿を見せ、息子の方にかけてくるではありませんか。私たちのはかつての出来事から大きな教訓を得ていました。そしてこの2年間に様々なことがありましたが、息子は自分の腕力でないものを実際に使っていたのです。

2年前、馬の綱をはずしてしまっただい

目に遭った後、息子はおびえきってしまいました。私の言い付けを守らなかったからでした。「お父さん、どうすればよかったの。」息子のこの言葉に対して、私はこう答えました。「私たちにできることがひとつある。馬の方から走り寄ってくるようになる日を待つんだよ。」息子はそのための備えをし、そして大切な教訓を学んだのです。

アロン神権は備えの神権です。小神権です。何に対する備えなのでしょう。それは、若い兄弟たちがメルケゼデク神権を受けられるように備えをすることです。また、人生に対する備えをすることです。指導者となるための訓練をし、従順について学ぶ機会でもあります。さらに、自分より大きなものを制することができるように訓練することでもあります。自分の体力以上のものを使いこなす方法を学ぶことなのです。

さて、皆さんは12歳になって執事に聖任されると、定員会に属するようになります。定員会の一員になれることは何という祝福でしょう。そして生涯、何らかの定員会に属していられるのです。12名から成る執事定員会、24名からなる教師定員会、そして48名から成る祭司定員会。さらに、忠実でふさわしければ、メルケゼデク神権に聖任され、大神権者となるのです。アロン神権を持つ若人の皆さんにもう一度申し上げます。アロン神権はメルケゼデク神権を受けるための備えをする神権です。そしてメルケゼデク神権と同じように物事に対処する方法を学んでいくのです。

ここで例の私の息子のことに話を戻しましょう。彼は大学の工学部を卒業し、今はある大都市に住んでいます。仕事も家庭も新しく不慣れで、しかも親元を離れての生活ということで落ち着かないようでした。

私はそんな息子からふたつの経験を聞きました。彼は大勢の技師たちに囲まれて、広い一室で働いています。仕事に就いて2カ月程過ぎたある日のことです。彼は終業時間になったらすぐに退社できるように仕事を片づけ

ていました。私たちは日頃から、始業時間より少し早く出社し、帰りはすぐに帰らず少しでも仕事をするようにと教えていましたが、しかしその日、息子はどうしてもすぐに帰りたかったのだそうです。すると同僚から、どこかに行くのかと尋ねられました。

「なぜそんなに急いでいるんだい。」

「ええ、夕食会に行く約束があるものからです。」

「特別な夕食会でも？」

「定員会の夕食会なんです。妻と一緒にその夕食会に行くことになっているのです。」

すると他の技師が首をかしげて言ったそうです。「どうも分からないな。私はここで働いて2年になるが、特に親しい人はまだいない。いつも妻とふたりだ。ところが、君はここに来てまだ2カ月だというのに、もう夕食に招待してくれる人がいるのかね。」

もうひとつの経験は、ある日同僚の技師のひとりから引越しの手伝いを頼まれた時のことです。「いいアパートが見つかりましてね。土曜日に引越しするんですよ。人手が欲しいと思っているんですが、お手伝いいただけますか。」息子は快く引き受けたということです。その日、息子は妻が役に立てばうれいと言って、彼らのために準備したパンと食事を持って手伝いに出かけました。息子は私にこう言うのです。「お父さん、考えているんですが、彼は私のことをよく知らないんです。私も彼がどういう人なのかよく知りません。」もし私が彼にとって引越しの手伝いを頼まれるほど親しい存在だとすれば、彼にはだれも親しい人がいないんですね。」そしてこう付け加えました。「私にはこんなに大勢の友達がいるのに。」

新しい市に移った息子夫婦は教会に行きました。そして息子は定員会の一員となりました。定員会、それは互いに支持し、助け合う場。神権の定員会です。アロン神権者の若人の皆さんは今から準備を始めることができます。皆さんは他の人々を助ける訓練を受けて

きました。断食献金を集めること、聖餐やホームティーチングなどの責任を果たすことによって他の人々を助ける訓練を受けています。それはなぜでしょうか。皆さんは定員会の一員だからです。定員会、この言葉には何という深い意味が含まれていることでしょうか。しかし教会の中で、定員会の価値がまだまだ十分に認識されているとはいえません。

定員会に属することは何という名誉でしょうか。定員会を管理する召しは特別な責任です。定員会の書記や教師に召されることもまた素晴らしいことです。定員会 (Quorum) という言葉の語源を知っていますか。この言葉は旧約聖書や新約聖書の中にはありません。これは古代ヨーロッパに起源があります。古代ローマでは何か大事業を行なう時には委員会を設け、委員を任命しました。そして委員には証明書が交付されました。この証明書に「Quorum」という言葉が書かれていたのです。それは、その委員会が行なおうとしていること、委員会の大切さ、選び抜かれた委員であることの証明を明示し、次の言葉をも表わすものであったのです。「あなた方は一致しなければならぬ」と。

若い兄弟の皆さん、皆さんは定員会の一員です。何と素晴らしい機会でしょう。責任感を養い、自らの生活を支え、人々を助けることができるようになるのです。私はアロン神権を受け、今もそれを有していることを感謝しています。私の息子がアロン神権を授かっていること、また皆さんも神権を得られることを私は心から感謝しています。皆さんの上に神の祝福がありますように。福音は真実です。神権は実に素晴らしい機会を私たちに与えてくれます。イエス・キリストのみ名によってお話しします。アーメン。

(1978年11月4日、ブラジルのサンパウロでの地域大会の説教より)

新郎新婦からの贈り物

ユージン・A・カピュート



私がフランシーヌと知り合ったのは、ふたりが教会に入って数年後のことでした。ところが、両親は共に教会員ではありません。そこで、ふたりが神殿結婚をしようと決心した時、結婚式に出席できない家族にそのことをどう説明しようかと頭を悩ませました。

それでも私たちは、「神殿には教会のふさわしい会員だけしか入れないのです。」と説明しました。

家族や友人たちは心を傷め、怒りをぶちまける者さえ出てきました。彼らは口々にこう言いました。「結婚式といえば、あなた方の人生で最も大切な日ですよ。それなのにどうして親が出席できないような所で結婚式をするのですか。」みんなが私たちを思いやりのない恩知らずだと思っていることはよくわかっていました。

私たちは、家族を心から愛していましたので、それがどうしようもないほど苦痛でした。と同時にこれまで世話になってきた教会員でない人々や、愛し尊敬する友人たちに、私たちが、どれほど彼らのことを気にかけ、彼らの気持ちを大切に考えているか知ってもらいたいと思いました。私たちの気持ちをわかてもらいたいと思ったのです。

でも私たちは、神殿結婚をあきらめることができませんでした。そこで私たちはよく考えて祈り、ひとつの考えを得ました。それは新郎新婦のための披露宴ではなく、招待者中心の披露宴を持つことでした。

招待状には、披露宴で行なうプログラムをあらかじめ印刷しておきました。記念写真は招待者がくる前にすませ、みんなが到着する頃にふたりで20分ほど並んで招待者を出迎えました。それから全員に席に着いてもらったのです。

プログラムは監督が司会し、祈りによって始めました。出席者の中には教会員でない人が多く、不愉快な印象を与えたくないと思っていましたが、うれしいことに後でみんなか

ら祈りがよかったと言われました。プログラムには、音楽の発表がふたりと、3人の話が予定されていました。最初に監督が永遠の結婚についてわかりやすく、上手に説明して下さいました。友人たちは、監督の話から今まで味わったこともないような喜びを感じ、啓発されたと言っていました。

続いて、私とフランシーヌが話をしました。私たちは互いに抱いている愛や家族と友人たちに対する思いを簡単に伝え、私たちの愛と感謝の気持ちをはっきりと述べました。そして、永遠の結婚について私たちが理解していることと、その証を述べました。そして再び、祈りによってこのプログラムを閉じ、同時にリフレッシュメントを食べながら、私たちはいろいろな人々と話を交わしました。多くの人から神殿結婚のことについて尋ねられ、また私たちが述べた証に感謝されました。義理の父からは、このようなプログラムを計画したことで礼を言われました。「フランシーヌと一緒に結婚式には出られなかったが、もうそんなことなどどうでもいい」と言ってくれました。

リフレッシュメントの後に、両親の故郷ヨーロッパに古くから伝わる「お礼ダンス」が始まりました。このダンスは新郎新婦が最初に踊り、途中で新郎新婦の服にお礼をピンで留めた人が替って一緒に踊ることができるといふダンスです。このダンスでも私たちがいろいろな友達と話をしました。彼らは皆、口口に私たちを愛しており、末日聖徒であることは本当に素晴らしいことだと言っていました。

帰りに、招待者のほとんどはこれまで出席した披露宴の中でこの披露宴が一番すばらしかったとほめて下さいました。両親たちも満足で、幸せそうでした。

私たちは、披露宴を家族や友人たちへの贈り物とすることによって、素晴らしい宝を分かち合うことができたと思っています。それは彼らに永遠の結婚や主の偉大な永遠の進歩の計画について少しでも知らせることができたからです。

新たな出発

バブゼイン・パーク



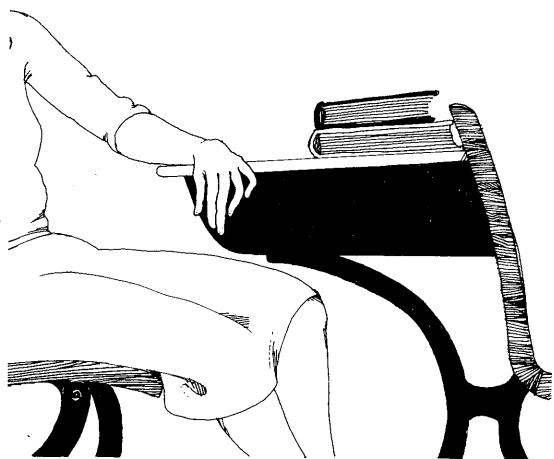
青い車が、私たちを乗せて田舎道を走って行きます。この5年間住み慣れた町が、次第に小さく後ろに消えてゆきます。私はふたりの妹と、母の運転する車に乗りました。その前を、父の運転するトラックが、ベッドやテーブル、古いピアノ、食器の入った箱や洋服、それにいろいろな思い出を一杯積み込んで走って行きます。人口880人ののどかな町を去って、26,000人の大都市へ行くのかと思うと、まったくうんざりしてしまいます。当時12歳の私は、これから行く見知らぬ所には、あの田舎の新鮮な空気や親しい友達の代わりになるものは何もないと思っていました。さようなら、私の人生で最も素晴らしい時よ。私は、運命に逆らわないで生きていきます。

新しい家に落ち着いてからも、夏の間ずっと、私はレコードを聴いたり、本を読んだり、懐しい友達に手紙を書いたりして過ごしました。しかし、夏も終わりに近づくにつれ、新学期になって学校に行くのが楽しみになってきました。それもそのはず、新しい学校には

何と、以前に住んでいた町の人口とほとんど同じ位の生徒がいるのです。

9月になり、私は新しい洋服を着ると、少しこわばった笑みを浮かべて、校門をくぐり、1時間目の授業に出ました。教室で席に着くと、前の席にすわっている女の子がぐるりとふりむいて、自己紹介をしてくれました。私は、少しほっとしました。

時間がたつにつれ、この学校の生徒も前の友達とそう違わないと思うようになりました。みんな私と同じように歌が好きですし、フットボールも盛んです。算数のテストはにが手なようですし、寒いのも嫌いです。私はだんだんみんなの中に入っていけるようになり、6年になったら前の学校に帰ろうと考えていた計画を捨ててしまいました。そして学校のプラスバンドに入って、クラリネットの練習を始めると、私もこの学校の生徒なのだと思うようになり、何となく安心した気持ちになりました。そんな時、後でもっと素晴らしいグループに所属するようになるとは、想像も



していませんでした。

私は教会員でしたが、以前は家の裏にあったプロテスタント教会へ通っていました。近くに支部はありませんでしたし、一番近いワード部でもかなり離れていたからです。ところが、こちらに引っ越してきてからは、末日聖徒イエス・キリスト教会の日曜学校に行くようになりました。とても大きな教会で、それに教会員も親切で、私はみんなから大歓迎を受けました。私はすぐに、テレサという女の子と仲良しになりました。ある日テレサは、私をミュージャタルに誘ってくれました。彼女はミュージャタルについて説明してくれましたが、説明を聞いただけでは、それがどういうものなのか見当もつきませんでした。ところが参加してみてもびっくりしたことに、そこでは、男の子と女の子が一緒になって勉強したり楽しい活動をしたりしているのです。こうして、私は教会の活動に積極的に参加するようになりました。ミュージャタルにも欠かさず出席しました。ミュージャタルは、いつも、私

の心に温かい気持ちを与えてくれました。その頃、私には教会に対する証がありませんでしたので、教会に行く理由とと言えば、友達や指導者が示してくれる愛と友情しかなかったのです。しかし、私がそこで感じた温かさが、私の人生をよい方向に導いてくれたのです。

そして今、私は教会に来ていない男の子や女の子の名前を聞いたときに、彼らも何かのきっかけさえつかめば必ず教会に帰ってくる人なんだと思うようになりました。私をいつもミュージャタルに誘ってくれた素晴らしい友、テレサに心から感謝しています。そして、ワード部の活動に参加するよう勧めてくれたワード部の温かい会員たちに私は心から感謝しています。「また不活発な女の子か。どうして教会へ来ないんだらう」と言わずに、「彼女、何ができるかな。何かやってもらおうよ」と言ってくれたことに感謝しています。

ミュージャタルは、私にたくさんのことを教えてくれました。ファイアサイド、ガールズキャンプ、パジャマ・パーティー、そして永遠の友達。中でも大切なことは、私の心の中に福音の証が芽生え始めたこと、若人の生活にミュージャタルがいかに大きな影響力を持っているかを知ることになったことです。長い間、私は教会の不活発な会員のひとりでした。しかし、永遠に不活発で終わることがなくて本当によかったと思います。こうしている今も、私たちが教会に誘ってくれるのを待っている不活発な会員たちがたくさんいるはずですよ。ハロルド・B・リー大管長は、かつて次のようにおっしゃいました。「私たちが行なうべきことをしていれば、それで十分です。私は自分の経験から、そのために取り立てて多くのことをする必要がないこともよく知っています。」

永遠に続く事柄を 第一に考える

管理監督
ビクター・L・ブラウン



何年も前のこと、私が大阪を訪れた時、日本人の教会指導者のひとりから電話がありました。相談にのってほしいことがあると言ってきた。私はその人をホテルの部屋に招き、話に耳を傾けた。彼は、私がこれまで会った人人の中でも最も明晰な頭脳を持ち、知性あふれる人のひとりであった。

彼は大学で科学のある特殊な分野を専攻し、卒業して堅実な会社に就職していた。ところが同じ卒業生で、優秀な友人のひとりが東京

優先順位を決め、それを絶えず検討し、道に迷うことがないようにすることは、私たちが身につけるべき最も大切なことである。

言うまでもなく、優先順位を決めるためには、目標がなければならぬ。優先順位を決めることによって、その目標が達成し易くなる。

のある成長株の会社で働いていた。この友人が、最近しばしば彼に仕事を替わるように勧めてきた。東京の会社の副社長までも乗り出してきて彼と会い、もし今仕事を替わるならば、現在の3倍から4倍の給料を払うとまで言ってきたのである。

その要請に対して彼はこう答えた。「もしも私が大阪を去り、そのために教会の職から解任されることに、教会の役員の方が少しでも疑問を抱くようであれば、あなたがいくら高い給料を払うと約束されても、私はそれをお受けするつもりはありません。」すると副社長はこう言った。「私はクリスチャンではありませんし、あなたの教会がどういう教会なのか

も知りません。しかし、私はあなたのような方を自分の会社にほしいと思っています。」

彼は、教会の責任を解いてもらって、大阪から東京に引っ越すべきだろうか。言うまでもなく、彼のような人であれば、東京に行っても十分、主に仕えることはできるはずである。

彼は東京に移った。しばらくして、私が東京を訪れた時、再び彼から電話があった。私たちはかなり長い時間話をした。その後彼は仕事に大成功を収め、経験も積み、一流企業の経営者たちを教育する経営コンサルタントとして活躍していた。仕事は多忙をきわめ、収入はよかった。しかし、彼は教会の責任と家族の務めを十分に果たすことができなかった。

私は彼に、どうしなさいとは言わないが、もしも彼が真の改宗者になりたいと思っているのならちょうどよい聖句があると言って、次の聖句を引用した。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33) 彼はこの聖句を聞いて、いささか心に動揺を覚えたようである。しかし、私はそのままこの友人と別れた。

アメリカに帰って数週間後、私は彼から一通の手紙を受け取った。その中に、彼が優先順位をはっきりと決め直したことが書かれていた。彼はその会社を辞めた。現在、彼が第一に考えているのは家族と教会であり、そして第二が仕事である。優先順位を決め、それを絶えず検討し、道に迷うことがないようにすることは、私たちが身につけるべき最も大切なことである。

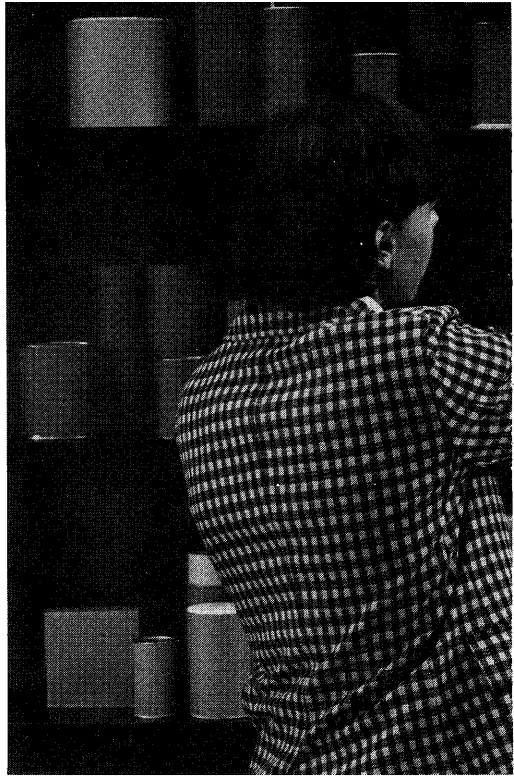
言うまでもなく、優先順位を決めるためには、目標がなければならぬ。優先順位を決めることによって、その目標が達成し易くな

る。皆さんはパイロットの話を知ったことがあるかも知れない。あるパイロットが乗客に、今ここに良い知らせと悪い知らせのふたつがあると発表した。つまり、良い知らせとは、飛行機は現在、時速1,000キロで飛行中であること。悪い知らせとは、どうも航路を間違えたいらしいということである。パイロットの目標は、飛行機を無事に目的地に到着させることである。しかし、彼は優先順位をはっきりと決めることができなかった。多くの人々がこれと同じような問題を抱えている。

先日、とても美しいひとりの女性が両親と一緒に私の事務所にきた。良い家族に恵まれているが道を見失い、重大な問題を抱えていた。彼女はまだ結婚もしていないのに妊娠してしまい、どうすべきか悩んでいた。私には、彼女が苦しみ悩んでいることがよくわかった。と同時に、この女性が主を愛していることもよく理解できた。しかし、主を愛する人は絶えず主と交わり、主の戒めを守る人であるということを、彼女は忘れていたのである。彼女は一生懸命に自分を抑えていた。そして、私が主に祈りましたかと尋ねたとたん、わっと泣き出してしまった。

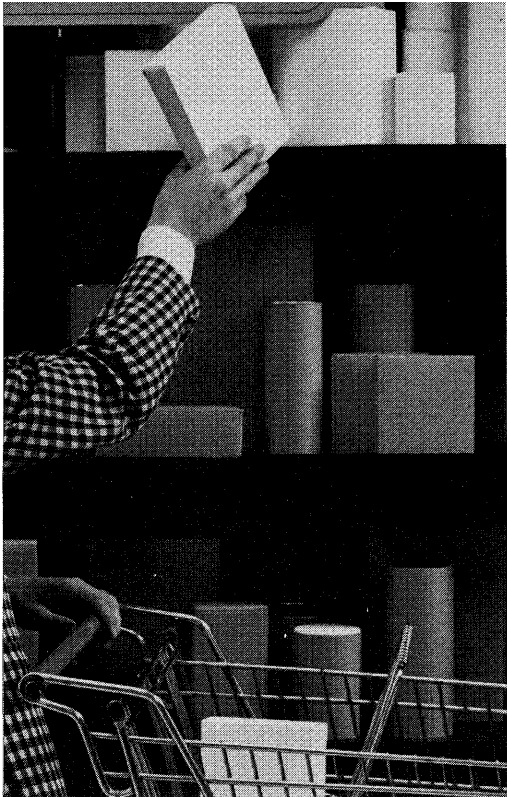
私たちが日々、主と交わること、さらに必要ならばしばしば天父と交流を持つことがいかに大切かよくわかりいただけたと思う。天父は私たちの善し悪しに関係なく、いつも私たちを愛して下さる。しかし、天父が私たちに祝福を与えて下さるかどうかは、私たちがいかに努力し、行動するかにかかっているのである。

毎月第1木曜日に、教会幹部はソルトレーク神殿の一室に集まって、大管長会の管理の下に会合を開く。この集会に参加して得られ



る、最も靈感あふれる経験のひとつは、救い主の生涯の出来事を描いた3つの絵を見ることである。この3つの絵は、大管長会が座る椅子の後方の壁に掛かっている。ひとつは、ガリラヤの海の岸辺に立つ救い主、もうひとつは十字架上の救い主を描いたものである。そして3枚目の絵には、墓からよみがえられたばかりの救い主の姿が描かれている。私は、この3枚目の復活された救い主の絵にいつも心を奪われる。

この絵の中で画家は、よみがえられた主のみ前に立つ人はどのような気持ちになるかを描こうとしているようである。救い主は真っ直ぐに立ち、愛らしい女性の顔をにこやかにやさしく見下ろしている。女性はうやうやしく救い主の前にひざまずき、主を拝する思い



を顔全体にただよわせて、じっと主の目を見上げています。

このように救い主に受け入れられるにふさわしい状態になることが、すべての末日聖徒にとって最優先にすべきことではないだろうか。

そのためにも、神殿結婚をしてシオンに住む義しい両親になることが重要な目標になってくる。この正義に基づいた永遠の家族を築くことは、私たちの最も大切な責任である。主は、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」と命じられた。また主は次のようにも述べておられる。「子供たちは神から賜った嗣業であり、……矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。」(詩篇127：3，5)

今日の社会には、サタン自身からくる教え

を説いている耳ざわりな人々の声がある。彼らは、男性と女性と一緒に暮らすには必ずしも結婚をする必要はないと唱えている。結婚をしなくても性的交わりを持つことは、普通に受け入れられるべき行為であるという。また結婚した夫婦は、ふたり以上の子供を持つべきでなく、できれば子供がいない方がよいと教える。

ある立派な教会員の娘が、最近、両親に向かってこう言った。「もうこれ以上、赤ちゃんはいらないわ。」彼女は自分の家族の人数のことで友達からからかわれたのである。その家族には4人の子供たちがいた。そこで両親にもうこれ以上赤ちゃんはいらないと言ったのである。「矢の満ちた矢筒を持つ夫婦に、主がどのような約束を用意しておられるか、私にはわからない。しかし、主は、「子供たちは神から賜った嗣業」であると教えておられる。

皆さんの中には、これから数年後に自分の家族を持つ人もいると思う。義しい家庭を築くことは、この世で皆さんが受ける責任の中で最も大切なものである。

また、もうひとつ優先すべき事柄が、讚美歌の歌詞にある。「来たれ予言者よみことば聞け」という言葉である。今日、この地上に、主と語ることのできる生ける予言者がいることは何という祝福であろうか。予言者が私たちに語る時、それは主御自身が語るのと同じである。そうであるとすれば、その言葉に従う勇気を持つことが肝要である。もし私たちがただ聴くだけで、従わなければ、聴くことにどのような価値があるだろうか。

従順についての偉大な教訓が列王紀下5：1—14に記されている。

「スリヤ王の軍勢の長ナアマンはその主君に重んじられた有力な人であった。主がかつて彼を用いてスリヤに勝利を得させられたからである。彼は大勇士であったが、らい病をわずらっていた。」

スリヤの王は、イスラエルの王がらい病をいやすことができると思い、王のもとにナアマンを送った。しかし、イスラエルの王はナアマンのらい病をいやすことができなかった。エリシャは王の心痛を知り、ナアマンを自分のもとへ送るように申し出た。

「そこでナアマンは馬と車とを従えてきて、エリシャの家の入口に立った。するとエリシャは彼に使者をつかわして言った、『あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう。』」

ナアマンは怒った。応待があまりにも素っ気なかったからである。ナアマンは自分を侮辱していると思い、怒って去って行ってしまった。

「その時、しもべたちは彼に近よって言った。『わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに「身を洗って清くなれ」と言うだけではありませんか。』

そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり、清くなった。」

また、救い主もこの従順を学んで成長されたのである。

「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、そして、

全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源とな……られたのである。」(ヘブル5：8—9)

確かに、従順は価値ある目標であり、この世の生活で最も優先すべき事柄のひとつである。

こうして考えていくと、優先すべき事柄は限りなくあるように思われる。しかもどれひとつとして無視できない大切なものばかりである。しかし、それらの多くは並行して働きかけることができるものである。そのひとつに、ルカによる福音書の中で救い主が説かれた奉仕がある。

「するとそこへ、ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、『先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。』彼に言われた、『律法にはなんと書いてあるか、あなたはどうか読むか。』彼は答えて言った、『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とあります。』

彼に言われた、『あなたの答は正しい。そのとおりに行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。』」

それからイエスは、強盗に襲われ、傷ついた人を助けた良きサマリヤ人の話をして下さった。祭司とレビ人はこの傷ついた人を見つけたが、そのまま通り過ぎてしまった。しかし、サマリヤ人は彼を助け、必要な世話をした。イエスはこの若い律法学者に再び尋ねておられる。

『「この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。』彼が言った、『その人に慈悲深い行いをした人です。』そこでイエスは言われた、『あなたも行って同じよ

うにしない。』。」

人に対する奉仕こそ、真の末日聖徒の生活を貫く原則とならなければならない。そのほかにも、優先順位を決める上で、覚えておかなければならない多くの原則がある。ここに、そのすべてを挙げることはできないが、犠牲もそのひとつである。

皆さんはすべての戒めを守っていたが、自分の富だけは捨てることのできなかつた若い役人の話を聖典で読んだことがあると思う。

「イエスはこれ聞いて言われた、『あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。』」

彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持ちであったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、『財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。』」(ルカ18:22-24)

什分の一を納め、断食献金やワード部管理運営費を支払い、その他求められるものをすべて捧げる人は、奉献の律法に従う備えを行なっているのである。私は、私たちの備えが十分達成された時に、この大いなる奉献の律法が私たちに与えられると堅く信じている。

現在、すでにその備えができている人もいる。しかし、まだまだ十分ではない。

私はこの備えができて一人の女性を知っている。彼女はある時、事故に遭い、夫をなくした。それも2度目のことである。彼女はまたこの不幸な出来事から完全に立ち直ってはいなかった。その上、これからひとりで育てていかなければならない幼い子供たちもいる。それでも、彼女は夫の死亡によって

受け取った保険金の什分の一を納めた。書記のひとりが監督にこう言った。「教会よりも、彼女の方がこのお金をもっと必要としているはずです。監督、このお金は彼女に返すべきではないでしょうか。」

監督は私に尋ねてきた。私は次のように監督に問い返した。「その姉妹には什分の一を納めることによって得られる祝福以上に何か必要なものがあるでしょうか。」

この若い母親の信仰と献身に対して、主がどのように天の窓を開いて下さるかご想像いただきたい。

私は、教会の若人が持っている活力のことを思い、その活力を義しい望みを持つように導いていくことの重要性について考える時、いつも胸の高鳴りを止めることができない。

私は神が生きておられることを知っている。一点の疑いもなくそのことを知っている。イエス・キリストは神の御子であり、御父と御子は14歳の少年ジョセフ・スミスに現われたもうた。そして、この偉大な示現の後、数年間、ジョセフ・スミスは福音を自ら学び、祈り、しかも自分の使命について教えと導きを受けた。このようなことは、皆さんの身の上にも起こり得ることである。もし私たちが自分の創造された目的を完全に満たそうと思うならば、自己を訓練し、自分を鍛練する方法を学ばなければならない。

この自己訓練を達成する上で、最も大切なのが優先順位を決めることである。しかもその優先順位の中で、最優先にしなければならないのが、まず第一に神の国を求めるということである。

100%のホームティーチング

——オーストラリアの奇跡——



日本韓国地域代表役員

菊地良彦

十二使徒評議員会エズラ・タフト・ベンソン会長の指示を受けて、オーストラリアのブリスベーン市を訪れたのは、2月16日、南半球は真夏の最中でした。ブリスベーンは町並がとても美しく、オーストラリアの中でも特に根強く英国の古い風習が残っている市です。ブリスベーン・ステーク部は、18年前、スペンサー・W・キンボール長老により設立され、2年前にブリスベーンとブリスベーン南ステーク部に分割されたばかりです。

私がこの地で見た奇跡は、ホームティーチングを90～95%達成していることでした。2年前の分割当時は、20%前後しかなかったのです。ところが新しく召されたブリスベーン南ステーク部のラルフ・B・オースステーク部長は、第1に、全会員に大管長のメッセージを伝えること、第2に教会員を完全に守護すること（教義と聖約20：42参照）を考えました。そのためには、神様に聖められた神権者が「各家庭を訪れ、彼らが声を挙げても、ひそかにても祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそしむよう」（教義と聖約20：47）に教えることであると決心したのです。つまりお休み会員も含めて、教会員を全員守護し、訪問しようと決心をしたのでした。

兄弟たちは、頹廢的ムードを一掃し、ステーク部の全教会員を救うため、「100%のホームティーチングをする」と決心をしたのです。そしてステーク部の分割時に訪問された十二使徒のデビッド・B・ヘイト長老と地域代表役員ローレン・C・ダン長老の勧告を完全に達成しようと決心したのでした。

100%のホームティーチング、新会員の守護、お休み会員への訪問というステーク部の決定を監督も支持し、それから3ヵ月後には100%を達成することができました。霊気は全ステーク部にみなぎり、さらにこの奇跡は拡がり、地域全体に行きわたりました。現在、地域では85%から90%平均の訪問率となっています。2年前はわずか20%の訪問率しかなかったのです。

ステーク部長は、この計画を推し進めてから1ヵ月でステーク部全体を覆っていた情気は消え失せ、「張りつめた空気」と「さわやかな気風」、「霊気」が全役員にみなぎり始めたと言っていました。ステーク部長会、監督会、神権役員たちは、頭をつかって今までよりも10倍以上も働きました。そして教会員には3倍から4倍働くように頼んだのでした。神権者は、ステーク部長のチャレンジに熱心に応

えました。失敗を恐れず、力の限りを尽くして働き、神様の助けを受けて、能力と時間を最大限に発揮したのです。

次にこのブリスベン南ステーキ部が行なった事柄の要点を箇条書きにしてみたいと思います。

1. 全神権者をホーム・ティーチャーとして召す。
 - 全家族にホーム・ティーチャーを割り当てた。
 - 中には担当家族を30も受け持った人がいた。
 - 最初の月はできるだけ多く訪問するようにした。
 - 独身成人プログラム(SAP)の家庭の夕べのグループもホームティーチングに活用した。
 - 専任宣教師や、ステーキ部宣教師など宣教師も訪問できるように調整した。
(会員と訪問する場合、訪問件数とみなす)
 - 神権個人面接を必ず行なった。
 - 最初は質よりも量を優先した。
2. 2カ月目に第一次の分割を行なう。
 - 教会員を訓練し、ホーム・ティーチャーに召した。
 - 担当家族数が30から15になるように分割した。
 - 活発化された兄弟をどしどしホームティーチャーに召した。
 - お休み会員にも積極的に働きかけ、こちらから頼んでホームティーチャーに召した。
 - ステーキ部長会、高等評議員、ワード部の神権役員たちは割り当ての200%~300%の数を訪問した。
3. 3カ月目、第二次分割を行なう。
 - 担当家族数が15から7になるように分割した。
4. 4カ月目、第三次分割を行なう。
 - 担当家族数が7~8から4~5になる

ように分割した。

5. 5カ月目は第四次分割を行った。

- 全神権者が2~3の担当家族を受け持つようになった。

こうして沈滞ムードは2, 3カ月で完全に一掃され、見る見るうちに活気あふれるステーキ部が誕生したのです。奉仕と祝福、さらに輝かしい希望が全体にみなぎり、失敗をおそれずに、力の限り働いて、一人一人の神権者が「靈感と時間と才能」を十二分に発揮して達成した100%のホームティーチングでした。

先日、日本を訪問された十二使徒のひとり、デビッド・B・ヘイト長老は次のような提案をして下さいました。

1. バプテスマを受けた18歳以上の男性はすべて次の日曜日に祭司に按手聖任すべきである。
2. メルケゼデク神権の誓詞と誓約を受け入れることのできる18歳以上の男子会員はすべて5~6週間以内でも資格があるならば、メルケゼデク神権を与えるべきである。
3. 神権者はすぐにホームティーチャーに召して訓練する。
4. 教会、特に定員会で責任の一つを与えるようにする。

私は、日本と韓国の地域で以上の提案を是非実行できるようにしたいと思います。神の王国が大きく発展し、多くの人々に救いと昇栄をもたらす神のみ業が推し進められるように祈っています。

「汝らもし、日の榮の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。……(「教義と聖約78:7)

「およそ、すべてを感謝して受くる者には栄光を与えられん。而して、この世のものもまた彼に加えられることすなわち百倍よりも多からん……」
(教義と聖約78:19)

改組された
七十人第一
定員会会長会



フランクリン・D・リチャーズ



J・トーマス・ファイアンス



ニール・A・マックスウェル



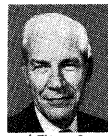
カーロス・E・エイシー



M・ラッセル・バラード・ジュニア



ディーン・L・ラーセン



ロイデン・G・デリック

大管長会は1980年2月22日、七十人第一定員会会長会の改組を発表しました。

この改組によって7伝道、カリキュラム、神権、系図の各部門の管理が七十人第一定員会会長会に委ねられ、権威の系統が強化され、教会本部の管理が一層効果的に推進されることになりました。

新しく会長会の一員として、召されたのは、カーロス・E・エイシー長老（伝道部門管理ディレクター）、M・ラッセル・バラード・ジュニア長老（カリキュラム部門管理ディレクター）、ディーン・L・ラーセン長老（神権部門管理ディレクター）、ロイデン・G・デリック長老（系図部門管理ディレクター）の4名の長老たちです。

また、会長会から解任された次の4名の方は、定員会会員として、ほかの責任に召されました。

A・セオドア・タトル長老。タトル長老は現在、プロボ神殿の神殿長として働いています。

マリオン・D・ハンクス長老。ハンクス長老は7月1日付をもってジェイコブ・ディエガー長老に替り、香港に本部を置く東南アジア・フィリピン地域の代表役員に就任します。ディエガー長老はソルトレーク・シティーに帰任します。

ポール・H・ダン長老。ダン長老はロバート・L・シンプソン長老に替って、ユタ州ソルトレーク・シティー地域の代表役員に任命されました。シンプソン長老は、先頃、ロサンゼルス神殿の神殿長に任命されました。

W・グラント・バンガター長老。バンガター長老は新しく組織されたユタ州ソルトレーク・シティー南地域の代表役員に任命されました。

その他の七十人第一定員会会長会、フランクリン・D・リチャーズ長老、J・トーマス・

ファイアンス長老、ニール・A・マックスウェル長老は今後も引き続き会長会の一員として責任を果たします。

大管長会はまた、会長会の組織の変更と相まって、定員会会員の担当の変更も発表しました。

ロバート・D・ヘイルズ長老。7月1日付でセオドア・M・バートン長老に替って、ヨーロッパ地域の代表役員に就任します。バートン長老はソルトレーク・シティーに帰り、教会のほかの責任に召される予定です。

ジェームズ・M・バラモア長老。バラモア長老は7月1日付をもって、ヘイルズ長老の後を継いでヨーロッパ西部地域の代表役員に就任します。

F・エンツィオ・ブッシュ長老。同じく7月1日付をもって、バラモア長老の後を継いで、ヨーロッパ北西部地域の代表役員に就任します。

七十人第一定員会会員は、十二使徒評議員会の指導の下に、教会の教義に従って、「教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理する」（教義と聖約107：34）責任があります。

現在、七十人第一定員会会員は42名いて、カリキュラムや系図、歴史記録、伝道、神権、神殿の各部門、さらに日曜学校や若い男性の会長会など、教会本部における主要な部門の管理ディレクターや実務ディレクターとして奉仕しています。

このほかにも、七十人は全世界の各地域の代表役員としての責任も持っています。現在地域の代表役員として、合衆国以外に在住している七十人が12名います。

さらに、7名の七十人第一定員会名誉会員がいます。

日本神戸，日本東京東ステーキ部組織される！

去る3月20日，23日の両日，神戸と東京で催されたステーキ部大会において，日本神戸ステーキ部，および日本東京東ステーキ部がそれぞれ組織されました。

なお，これらのステーキ部は新規，もしくは従来のステーキ部が分割した形で作られたもので，これに伴ってその近隣のステーキ部長会にもメンバーの異動がみられました。左よりステーキ部長，第一，第二副ステーキ部長（敬称略）

- 東京ステーキ部（新山靖雄，内山雅亘，宮脇莊司）
- 東京北ステーキ部（福田真，八木沼修一，杉沢広行）
- 東京東ステーキ部（神崎良太郎，横山喜一，斎藤和雄）
- 大阪ステーキ部（中野正之，中島哲，小松忠）
- 神戸ステーキ部（水野敬一，長浜修，大嶋誠）
- 大阪北ステーキ部（中村晴光，川口高司，平野勝也）

500人参加の大マラソン

—福岡ステーキ部—

3月20日，穏かな小春日和の中で，福岡ステーキ部主催，第1回全日本モルモンマラソン大会が開催されました。

中村武史エリア幹部書記御夫妻をはじめ北は札幌より南は沖縄にいたるまでのステーキ部，伝道部代表選手，総勢500人の老若男女モルモンが，古えの金印発見の地，志賀島に集って，競い合いました。

レースの結果は別記の通りですが，順位に関係なく健全な体と信仰に燃えたスポーツマン達の集いは終始さわやかさを横溢した素晴

しい催しとなりました。

19日の前夜祭ではゲームや竹ダンスに興じ，扶助協会の真心込めた食事に舌鼓を打つなど，笑みを交し合った和気あいつの雰囲気そのままに20日の競技が進められました。その中にこのようなエピソードがあります。競技中，ひとりの走者がうずくまってしまうという事態が起きました。傍を走る3人の代表選手が自らの競技を省みずおもわず駆け寄りました。その時，巡回車は島の反対側を廻っており，しかも保安委員も一名しか配置されていない状態でした。兄弟達は一般の車を止めて本部救護所へその走者を送って下さるように頼みました。見も知らぬ一般の方も快く引き受けて下さり走者は無事でした。この事件で兄弟達は相当の遅れを喫しましたが，3人で手をつなぎ，揃いのガッツポーズでゴールインした時には，期せずしてあちこちから大きな拍手が湧き起りました。そして，その額には汗が彼らの愛の証のように光ってしまし



た。大会閉会後もそれぞれのレース展開を思い巡らす選手達。「あそこでもう少しスパークかけたかったな」「あの兄弟遠くから来たんだってね、でも一緒に走っていて楽しかったよ」などの話が飛びかいました。

「来た時よりも美しく」のキャッチフレーズで閉会後に行われたクリーンキャンペーンも好評で、九州各地から集って下さった沢山の家族の方々も十分に楽しんで頂けた休日となったようです。(日本福岡ステーキ部広報担当)

別記

団体優勝 名古屋ステーキ部
団体二位 福岡ステーキ部

団体三位 東京ステーキ部

教員個人の部

(20km)

優勝 江部 仁 東京ステーキ部
1時間13分48秒
2位 藤本敏男 岡山伝道部
1時間16分30秒
3位 福島義夫 名古屋ステーキ部
1時間25分00秒

(10km)

優勝 藤原 浩 福岡ステーキ部
41分05秒

証 (あかし)

主の恵みと喜びを ひとりでも多くの人々に ——夫婦で伝道——



このたび、日本仙台伝道部に専任宣教師として召された広島支部出身の西原兄弟姉妹。おふたりは日本で夫婦として召された最初の宣教師です。

かつてお子さんを伝道に出され、さらに今ご夫婦でその業に励まれる姿には、ほんとうにうらわしいものがあります。

伝道にあたって、その決意のほどをおふたりに証していただきました。

私がバプテスマを受けましたのは、今から約24年前のことです。その当時、日本人宣教師はほとんどいませんでしたが、私はいつもアメリカ人の宣教師を見ては、頭の下る思いがしました。日本語の勉強をしながら、神様のすばらしいメッセージを宣べ伝えようと全身全霊をもって働いておられる姿を見て、私

たちは、自分の子供も是非伝道に出したいと思うようになりました。それから一生懸命努力して、やっとふたりの子供を伝道に出すことができました。

ふたりの子供が伝道を終え、それぞれひとり立ちできるようになると、今度は自分たちが伝道に出たいという気持ちが強く生じてき

ました。それでも伝道に出るためにはいろいろな準備が必要です。まず第1に、精神的な準備、中でも自分自身をよく整えなければならぬと思いました。次に、経済的な準備もあります。そのほかにも、多くのことを準備する必要があると思います。しかし、神様は私たちが必要なものは願ひ求めるならば与えて下さいます。私たちは一生懸命に祈り求めました。

そして、昨年の一月初の家庭の夕べで、いろいろと計画を立て、どのようにすれば一番よい方法で自分を整えることができるかを考えました。その時、ひとつの聖句を見いだしたのです。それは、アルマ書7章23—24節でした。「私はあなたたちが謙遜、従順、柔和であって容易に勧告に従い、忍耐強くよく勤忍し、何事にもひかえ目であっていつも神の命令を熱心に守り、肉体の上にも霊の上にも必要なものを願ひ求め、何物を受けてもいつも神に感謝することを望んでいる。信仰と希望と愛とを必ず固くもつように心がけよ、そうすればいつも善い行いを多くするにちがいない。」

それからこの聖句に従って、自分と家族をよく整えようと決心しました。このようにして長い間待ち望んでいた伝道の召しを神様から受けることができました。私は神様への感謝の気持ちで一杯です。

と同時に、あまりにも重い責任を痛感しています。

私たちの受けた主の恵みと平安と喜びをひとりでも多くの人々に分かちあうように頑張りたいと決意を新たにしています。神様は誠に不思議な業をなさいます。私たちは、沢山の試しにありますが、その一つ一つを一生懸

命に乗り越えてきました。できるはずがないと思われるようなこともありました。何とか主の助けがあつてみこころを行なうことができるようにと、毎日祈り続けました。弱い私たちではありますが、いつもニーファイの家族のように試しを進んで乗り越える者になりたいと心を励まし、勇気を出して頑張りました。そのようにして、毎日が過ぎていくうちに、この世のわずらわしさが一つ一つ私たちの肩から取り除かれ、気がついた時には、重荷はすべてなくなっていました。そして主の休息を受ける日が近くなっているのだと思うようになっていました。

しかし、主は私たちに休息の代わりに、働きの用意して下さいました。ほんとうにこの召しに感謝しています。自分たちの思いではなく、主のみこころを行ないたいと心から願っています。そのために、まず神様の命令を熱心に守り、指導者の勧告によく従い、愛と希望と信仰をもって多くの人々にこのすばらしい福音を宣べ伝えたいと心から願っています。神様は生きておられます。そしてイエスはキリストであることを心から証します。また私たちには生ける予言者が与えられていることを心から感謝しています。これらの証をすべてイエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

公 告

会員その他利害関係人各位

規則第18条の定める手続きを経て、下記の通り教会用地を道路として茨木市に売却致しましたので宗教法人法第22条の規定によって公告します。

昭和55年1月22日

宗教法人 末日聖徒イエス・キリスト教会 代表役員、菊地良彦

所在地	地番	面積(公簿上)	総計3,236㎡
茨木市末広町	参老四番地	1,024㎡	
	参老四番四	168㎡	
	参老四番壹	161㎡	
	参老四番壹式	495㎡	
	参老四番壹参	496㎡	
	参老四番壹四	892㎡	

上記より575.01㎡を売却

